

平成 27 年度事業報告

社会福祉法人ゆうかり学園

1、評議員会・理事会の開催状況

本年度は、下記のとおり評議員会及び理事会を開催した。

第一回評議員会 平成 27 年 5 月 26 日（火）

評議員 13 名中 13 名出席

- | | |
|-------|----------------------------|
| 第一号議案 | 平成 26 年度事業報告（案）審議の件について |
| 第二号議案 | 平成 26 年度決算報告（案）審議の件について |
| 第三号議案 | 監事監査報告の件について |
| 第四号議案 | 平成 27 年度第一次補正予算（案）審議の件について |
| 第五号議案 | 任期満了に伴う役員改選の件について |
| 第六号議案 | その他の件について |

第一回理事会 平成 27 年 5 月 26 日（火）

理事 6 名中 6 名出席 監事 2 名中 1 名出席

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 第一号議案 | 平成 26 年度事業報告（案）審議の件 |
| 第二号議案 | 平成 26 年度決算報告（案）審議の件について |
| 第三号議案 | 監事監査報告の件について |
| 第四号議案 | 平成 27 年度第一次補正予算（案）審議の件について |
| 第五号議案 | 任期満了に伴う役員改選及び理事長、理事長職務代理
選任の件について |
| 第六号議案 | 社会福祉法人ゆうかり学園経理規程改正（案）審議の
件について |
| 第七号起案 | 平成 27 年度事業福岡県共同募金配分決定の件に
ついて |
| 第八号起案 | 重要事項説明書の変更について |
| 第九号起案 | その他の件について |

第二回理事会 平成 27 年 9 月 24 日（木）

理事 6 名中 5 名出席 監事 2 名中 1 名出席

- 第一号議案 社会福祉法人ゆうかり学園跡地（石垣地区）の売却について
- 第二号議案 マイナンバー制度に伴う社会福祉法人ゆうかり学園就業規則改正（案）及び特定個人情報取り扱い規程（案）審議の件について
- 第三号議案 特定個人情報等の取扱い委託業者との委託契約について
- 第四号議案 社会福祉法人ゆうかり学園ストレスチェック制度に関する実施規定（案）審議の件について
- 第五号議案 社会福祉法人ゆうかり学園火災保険（建物、設備什器等）の見直し及び契約について
- 第六号議案 従事者総合保険の見直しについて（報告）
- 第七号議案 社会福祉法人ゆうかり学園監事の辞任申し出について（報告）
- 第八号議案 その他の件について

第二回評議員会 平成 27 年 12 月 10 日（木）

評議員 13 名中 10 名出席

- 第一号議案 社会福祉法人ゆうかり学園監事の交代について
- 第二号議案 平成 27 年度第二次補正予算（案）審議の件について
- 第三号議案 圃場整備事業完了に伴う定款変更（主たる事務所及び建物所在地の地番変更並びに基本財産：土地の追加）の件について
- 第四号議案 その他の件

第三回理事会 平成 27 年 12 月 10 日（木）

理事 6 名中 5 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 社会福祉法人ゆうかり学園監事の交代について
- 第二号議案 平成 27 年度第二次補正予算（案）審議の件について
- 第三号議案 圃場整備事業完了に伴う定款変更（主たる事務所及び建物所在地の地番変更及び基本財産（土地）の増加）の件について

- 第四号議案 久留米市田主丸町財産区「河童の森、森林吸収プロジェクト」について
- 第五号議案 ゆうかり医療療育センターのオゾン除菌脱臭機、医事システム切替に伴うリース契約及び利用者用給食食器購入の件について
- 第六号議案 人事院勧告の件について
- 第七号議案 行政監査結果報告の件について【報告事項】
- 第八号議案 社会福祉法人ゆうかり学園跡地（石垣地区）の売却について【報告事項】
- 第九号議案 その他の件について

第三回評議員会 平成 28 年 3 月 25 日（金）

評議員 13 名中 12 名出席

- 第一号議案 平成 27 年度第三次補正予算書（案）審議の件について
- 第二号議案 平成 28 年度事業計画（案）審議の件について
- 第三号議案 平成 28 年度当初予算（案）審議の件について
- 第四号議案 福利厚生施設としての一洗庵購入の件について
- 第五号議案 その他の件について

第四回理事会 平成 28 年 3 月 25 日（金）

理事 6 名中 5 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 評議員欠員に伴う補充の件について
- 第二号議案 平成 27 年度第三次補正予算書（案）審議の件について
- 第三号議案 平成 28 年度事業計画（案）審議の件について
- 第四号議案 平成 28 年度当初予算（案）審議の件について
- 第五号議案 施設長等の契約について
- 第六号議案 給食納入業者選定及び契約について
- 第七号議案 福利厚生施設としての一洗庵購入の件について
- 第八号議案 その他の件について

2、平成 27 年度心身障害児者の施設利用状況

ゆうかり医療療育センターの利用状況は、医療型障害児入所施設（定員 150 名）では延 11,472 名、一日平均 31.3 名、療養介護事業所（定員 150 名）では延 35,478 名、一日平均 96.9 名であった。入所率は 150 定員に対して 85.5%であった。短期入所では 18 名の利用があり、延利用日数は 529 回であった。一方、

日中一時支援も 24 名の利用があり、延 567 回の利用があった。

コアラ園では、児童発達支援事業（定員 20 名）に対し延 2,489 名、一日平均 10.3 名が利用された。また、放課後等デイサービス事業（定員 10 名）では延 674 名、一日平均 2.8 名であった。

耳納学園においては、施設入所支援（定員 34 名）に対し、延 11,529 名の利用があり、一日平均 31.5 名、充足率は 92.6%、就労継続支援 B 型（定員 40 名）では、年間作業参加実績延 7,143 名、定員から見た充足率は、74.7%、一日平均作業参加実績利用者数は 29.9 名であった。

千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 50 名）が延 11,500 名で 88.4%の充足率、施設入所支援（定員 40 名）は延 14,803 名で 102.7%の充足率であった。内訳は 6 名の利用者が延べ 307 日間の入院の他、外泊日数は延べ 210 日間となっており入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 14,286 名で 99.2%の充足率であった。ショートステイ利用者は延 181 名、日中一時の利用はなかった。

第二千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 40 名）に対して延 10,270 名で 98.7%、施設入所支援（定員 40 名）は延 14,904 名で 103.5%の充足率である。内訳は 7 名の利用者が延べ 438 日間の入院の他、外泊日数は延べ 117 日間となっている。入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 14,349 名で 99.6%の充足率であった。ショートステイの利用者は延 59 名、日中一時の利用はなかった。

施設毎の事業報告の詳細は別紙の通りである。

3、改正社会福祉法等に関する事項

3月31日社会福祉法の一部を改正する法律が公布され、翌4月1日施行（一部は29年4月1日施行）された。主な内容は社会福祉法人の役割（地域における公益的な取り組みを行う責務）、特別の利益供与の禁止に関する事項、事業運営の透明性の向上に関する事項、社会福祉法人会計基準に関する事項、指導監督等に関する事項の5点改正され、同時に社会福祉施設職員等退職手当共済法の一部改正、また社会福祉法人会計基準の一部を改正する省令も発出された。

また、障害者差別解消法（障害を理由とする差別を解消の推進に関する法律）が4月1日から完全施行されることになった。この一連の改正等について法人はもとよりすべての職員が内容を理解し、業務に反映していく必要があることから、理事長による講義を年間2回開催し周知徹底に努めた。

4、共同募金配分事業の完了

平成 26 年度申請（27 年度事業）として千歳療護園より申請していた福祉車両整備（トヨタハイエース 10 人乗り、リフト付き）については、27 年 4 月 2 日に配分決定を受けたので、福岡トヨペット甘木店に発注し 7 月 1 日納車の運びとなった。総事業費 3,334,040 円（共同募金配分額 1,700,000 円、施設負担 1,634,040 円）であった。

5、賛助会員の状況

今年度の加入状況は個人会員 99 名及び 4 団体であった。盆踊り花火大会、運動会への案内及び広報紙（年 3 回発行）を送付した。

また、温泉利用者数は延 3,438 名、（前年度 3,936 名）一日平均 38.6 名であった。

6、利用者様のサービス向上に関する事項

苦情解決委員会をはじめとする各委員会活動を通じて、利用者様のサービスの向上、並びに職員の資質向上に努めた。

7、定例事業

(1) 盆踊り・花火大会の開催

恒例の盆踊り花火大会は本年度で 30 回目を数え、平成 27 年 7 月 23 日（木）、田主丸町植木農業協同組合、福岡県緑化センターを主会場として開催した。

天候にも恵まれ、また今回はものまね芸人のアントキの猪木さんをゲストに迎え、猪木コールも巻き起こり、利用者様も大喜びで例年以上に楽しい盆踊り花火大会となった。

(2) 運動会の開催

本年度は平成 27 年 10 月 18 日（日）、新しく整備された久留米市東部運動公園で、移転後初の大運動会を開催した。広々過ぎるくらいのグラウンドで好天に恵まれ、3 年ぶりの開催で利用者、保護者、地域住民参加の中、楽しい一日を過ごす事ができた。

(3) 韓国瑞林福祉院との職員交流研修事業

本年度は 4 月 13 日から 16 日まで瑞林福祉院より 5 名（団長：尹永錫）が当法人を訪問し、16 日の出国時に当方より 5 名（団長：池田一子）が瑞林福

社院を訪れ 19 日まで有意義な交流研修を行った。

(4) 耳納学園展示即売会

第 9 回目となる恒例の展示即売会を本年度は 1 月 8 日 (金) から 11 日 (祝) まで『ゆめタウン久留米 ウェストコート』にて開催した。売り上げは若干ではあるが前回の実績を上回る事ができた。

8、職員研修事業 (園内)

(1) 外部講師による人権研修

(2) 新任職員研修

いずれも別添報告書の通り内容を進化させながら実施した。

9、委員会活動

苦情解決委員会はじめ各委員会活動を活発に行ってきた。各委員会からの報告は別添のとおりであった。

施設事業報告

- ゆうかり医療療育センター
- コアラ園
- 相談支援事業所 夢の紀
- 耳納学園
- 千歳療護園
- 障害者支援センター「ちとせ」
- 第二千歳療護園

医療部診療課 外来

《概況》

外来受診者の中で、入所前診察者は重症化の傾向にある。

療育前診察は昨年と同様、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動症、言語発達遅滞等の受診者が多く、1人あたりの診療時間は長く要している。

リハビリ実施計画書に基づく診察も行っているため、診療予約日を早めに設定し、診察がスムーズに出来るよう心掛けた。診察室は、5部屋で個室になり、プライバシーが守られ、より良い対応が出来たと思われる。

平成 27 年度 受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新患	17	12	17	13	23	23	26	41	35	50	26	50	333
再来	1,055	909	1,038	993	971	1,044	1,020	1,387 ※	1,106 ※	877	299	320	10,699

※インフルエンザ予防接種者を含む

- ・インフルエンザの流行時期は予防策として、外来者受付で体温測定とマスク着用を行い、症状のある時は、医師に報告し対応した。職員の意識も高まり、予防対策をおこなった。インフルエンザの感染拡大は無かった。
- ・入所者の重症化に伴い、ガス滅菌器の使用頻度が増加した。その準備時間とコストは増しているが、感染防止に欠くことはできない。

医療部診療課 エックス線

《概況》

ゆかりで、一年間を通してのレントゲン業務は胸部撮影が多かった。栄養チューブ確認や胃瘻造影などの特殊な撮影もあった。おひさま寮ではポータブル撮影がほとんどであった。整形外科の撮影は、利用者様の緊張の度合いもあり、正確に2方向は撮れないものの、CR装置を駆使し、良い画像が得られている。

平成 27 年度 エックス線撮影件数

一般撮影

(名)

月 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	21	39	32	26	28	26	31	23	37	27	33	24	347
なかよし	12	13	9	17	9	7	13	13	11	4	10	11	129
ともだち	13	7	11	2	15	3	3	11	11	11	10	3	100
外 来	16	27	20	17	8	11	31	28	95	29	19	15	315
計	62	86	72	62	60	47	78	75	154	70	72	53	891

CT

(名)

日 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
なかよし	0	0	0	0	0	4	1	1	0	0	0	1	7
ともだち	0	0	2	2	0	1	1	1	1	1	0	0	9
外 来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	0	1	2	2	0	5	2	2	1	1	0	2	18

- ・ 12月には職員健診のために外来が増加した。
- ・ おひさま寮、ともだち寮は、胃瘻造影が多かった。
- ・ CT撮影に関しては、頭部打撲によるCT撮影が増加してきた。

医療部診療課 検査

《概況》

本年度は、利用者様の年2回の健診、職員の健康診断に関しては予定通り行うことが出来た。2月半ばからなかよし寮の利用者様（学童）を初め、職員にインフルエンザA型・B型の流行がみられた。ノロウイルス胃腸炎については、職員に罹患者がみられたが、利用者様への感染は確認されなかった。下痢原性大腸菌については、利用者様を始め、就職時健診の職員で、感染あるいは保菌者が確認された。

27年 月	健診用検査			白血球数・CRP	血液生化学	検尿・検便	血液ガス分析	心電図	脳波	腹部超音波	迅速診断	外注検査
	6カ月	誕生日	外部・入園時									
4	23	21	1	21	19	27	2	17	6	6	12	104
5	21	27	3	23	15	12	2	14	1	2	12	120
6	13	23	1	18	18	19	0	18	2	3	14	86
7	17	18	2	60	12	33	2	19	0	3	13	76
8	20	25	1	27	11	19	6	22	2	4	2	149
9	15	15	1	50	9	25	1	14	2	2	10	105
10	21	23	18	48	15	22	0	28	2	4	8	93
11	28	22	2	26	12	19	7	22	3	3	18	116
12	22	15	1	54	6	18	1	11	1	1	22	77
1	17	17	2	44	20	18	2	18	2	1	23	91
2	25	17	6	40	20	27	3	22	0	3	62	127
3	13	15	9	28	13	11	4	18	1	1	44	114
計	235	238	47	439	170	277	30	223	21	33	240	1,258

《概況》

医師の処方箋に基づき調剤を行った。平成27年度の処方箋枚数及び調剤数については下表の通りである。

① 平成27年度受付処方箋枚数及び調剤数

外来（千歳、耳納、その他）・病棟（おひさま寮、なかよし寮、ともだち寮）

		外来						病棟					
		臨時		定期		注射		臨時		定期		注射	
月	日数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数
4	21	39	74	0	0	10	10	1,009	1,366	95	204	78	78
5	18	11	13	0	0	17	18	892	1,202	94	201	103	110
6	22	13	18	0	0	14	14	937	1,268	94	205	97	101
7	22	13	13	0	0	11	11	1,001	1,366	93	211	117	117
8	19	10	16	0	0	10	10	985	1,306	93	211	46	47
9	19	30	59	0	0	10	10	1,043	1,406	93	214	94	97
10	21	38	60	0	0	10	10	1,048	1,443	90	205	89	90
11	19	49	94	0	0	8	8	950	1,238	89	203	54	55
12	20	47	86	0	0	14	14	1,034	1,356	88	201	117	118
1	19	48	82	0	0	9	9	979	1,284	87	197	84	84
2	20	83	135	0	0	1	1	1,095	1,408	88	202	74	78
3	22	99	161	0	0	1	1	1,213	1,558	88	203	53	53
計	242	496	837	0	0	115	116	12,186	16,201	1,092	2,457	1,006	1,028

★吸入処方、外用剤でカウント

② 利用者の状態悪化による処方の増加傾向が進み、薬剤師2名での業務は限界にきている。入院の調剤量があまりに多大で捌けず、外来の院内処方の調剤を入院調剤終了まで待って貰い、又院外処方対応で協力をお願いした。

平成28年2月に軟膏ミキサーを導入し、業務の省力化の一助となった。

③ 薬事審査会開催

各科先生による新規採用医薬品の申請書提出に基づき審査を行った。

また、医薬品に関する安全性情報などの提供を行った。

④ 救急カート点検

急変時に必要となる注射薬の期限をチェックし、期限の切れたものについては随時交換を行った。

⑤ 院内感染症対策委員会参加

⑥ 医療安全対策委員会参加

⑦ 給食委員会への参加

臨床検査値の異常が投薬中の薬剤に起因するかいなかを、検討するとともに情

報提供を行った。

- ⑧ 出張 平成 27 年 11 月 5 日 福岡県病院薬剤師研修会 参加
 福岡県保健医療介護部薬務課、福岡県病院薬剤師会主催

医療部診療課 口腔衛生

平成 27 年度園内歯科受診者数 平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Dr	137	83	90	80	87	80	76	74	67	60	75	79	988
D.H	262	216	291	258	208	216	249	208	250	213	239	189	2,799

Dr (歯科医師) D.H (歯科衛生士)

平成 27 年度外来受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	25	28	54	35	13	25	28	24	29	25	23	26	335

- ・コアラ園利用者様の口腔検診実施 (6 月)
- ・職員対象の研修会実施 (8 月 2 回)
- ・千歳療護園において利用者様・職員対象のブラッシング指導実施 (2 月)
- ・本年度は特に、千歳療護園・第二千歳療護園の利用者様の齲蝕・歯肉炎への治療が充実してきた。今後の経過観察は要するものの口腔内環境が少しずつ改善傾向へとってきている。

看護部看護課

〈概況〉

利用者様の安全、そして快適な生活環境が提供できるよう、施設内研修の充実、業務改善を行い、看護・介護の質向上に努めた。

看護師1名が、日本重症心身障害福祉協会認定看護師研修を受講し、認定された。本年度も2名が受講中である。介護員1名が介護福祉士試験に合格した。

* 委託入院	久留米大学病院	10 件	聖マリア病院	6 件
	田主丸中央病院	8 件	福岡市立こども病院	1 件
◆ 超重症児		5 名	◆ 準超重症児	4 名
◆ 気管切開者		12 名	◆ 鼻腔カテーテル挿入者	15 名
◆ 胃瘻チューブ挿入者		18 名		

* インフルエンザ予防接種	130 名
インフルエンザ A 型罹患者	9 名
B 型罹患者	9 名
* 短期入所者（延）	522 名
* 日中一時支援利用者（延）	567 名

〈実習生受入数〉

介護実習	福岡医療秘書専門学校	2 名
	精華女子短期大学	4 名
医学・看護学生	久留米大学医学部看護学科	9 名
	昭和学園高等学校看護学科	56 名
	八女筑後看護専門学校	45 名
体験研修	新採用県職員	9 名
ボランティア		29 名

① 平成 27 年度 在籍者数（月初日）

平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療	29	30	32	34	34	32	32	32	31	31	31	31
療養	97	97	98	98	98	98	98	98	97	97	97	97

② 平成 27 年度入退園者状況

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
措置入園		1	1									
退園					1			1				
契約入園	1	2	1									
退園					1			1				
転寮	1		2									

③ 平成 27 年度年齢別入所者数

平成 28 年 3 月 31 日現在

年齢(歳)	0～6	7～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40 以上	計
措置	0	7	4	2	0	0	0	13
契約	1	4	4	9	12	29	56	115

【なかよし寮】

- 2 月下旬から 3 月中旬に、9 名がインフルエンザ A 型に罹患、隔離解除 1 日目に引き続きインフルエンザ B 型に罹患。寮内には、利用者・職員共に、罹患者はおらず、外部より持ち込まれた可能性が高い。感染拡大予防のため、予防薬服用やマスクの着用・手洗い厳守に努めた。
- 他医療機関への委託入院が 8 名と増加、利用者様の状態が重症化している。健康状態の把握、各々のニーズに合ったサービス提供が出来るように、努めていきたい。
- 週末や学校長期休暇中は、短期入所・日中一時預かりの希望が多く、空きがない状況である。
- 3 名が高等部卒業、2 名はなかよし寮継続利用、1 名が他施設へ退園。

【おひさま寮】

- 久留米大学小児外科 Dr の定期的な来園を通して、膀胱瘻造設術者 1 名。尿路感染症を繰り返しており今後、改善の可能性が低いため、膀胱瘻造設の運びとなった。

経口摂取者が肺炎で入院、疾患や加齢、経口摂取の在り方、食事形態、姿勢等も含め考えていく必要がある。また、特にリスクが高い呼吸器装着者、肺炎を繰り返す経管栄養者は、今後さらに異常の早期発見に努めていかなければならない。

- 感染症においては、インフルエンザ・ノロウイルス感染症の罹患者は無かったが、ESBL・MRSA 保菌者に対し除菌を試みているが陰性化せず、環境整備、一

処置一手袋・手洗いを励行する。

- 業務改善として、前年度より引き続きケアの個別化を図るため、育成部、看護部で協力しながら、日常生活のケアをユニットで対応する。

部署間のコミュニケーションも出来ているが、ユニットケアのメリット、デメリットを確認し改善していく必要がある。

【ともだち寮】

- おひさま寮より胃瘻造設利用者2名の転入があった。

短期入所も含め、医療的ケアを必要とする利用者が増えてきており、看護師のスキルアップを求められている。

- 感染症では、下痢原性大腸菌の検出が2件あったが拡大することはなかった。空気清浄機が2台増え、3台になったことで、感染症予防にも繋がっているのではないかと考える。

また、空気清浄機は消臭効果も大きく、保護者からも良い評価が聞かれている。

- 移転後2年経過して、全体的な居室替えを行った。環境の変化にも、比較的順応され、今後2年ごとに行っていく予定である。

- 業務改善として、内服処方日の薬剤処理ミスをなくすために、内服開始の前日に処方を受けることにした。(一部を除き)

病類別入所者数

平成 27 年 3 月 31 日現在

病 名		病 名	
脳性麻痺	68	脊髄破裂後遺症	2
低酸素性虚血性脳症	2	マーシャルスミス症候群	1
副腎白質ジストロフィー	2	先天性眼球欠損症	1
脳損傷後遺症	1	二分脊椎	1
頭蓋内出血後遺症	2	レット症候群	3
化膿性髄膜炎後遺症	2	低酸素性脳症後状態	1
左癱性麻痺	1	インフルエンザ脳炎後遺症	1
滑脳症	2	硬膜下出血後遺症	1
厚脳症	1	頭蓋咽頭腫摘出術後状態	1
クラインフェルター症候群	1	猫鳴き症候群	1
髄膜炎後遺症	1	乳幼児揺さぶられ症候群	1
ダウン症候群	2	心肺停止蘇生後状態	1
右中頭蓋窩クモ膜胞	1	脳腫瘍手術後状態	1
麻疹脳炎後遺症	1	頭蓋骨早期頭蓋癒合	1
脳炎後遺症	2	先天性筋緊張ジストロフィー症	3
無酸素性脳症	2	超低出生体重児	2
水頭症	3	水頭無脳症	1
精神発達障害	6	頭部外傷後後遺症	1
染色体異常	4		

計 128 名

<出張関係>

◆ 平成 27 年度社会福祉施設役職員研修

5 月 7 日、12 日、13 日、14 日

看護師 4 名

15 日、21 日、22 日、27 日

介護福祉士 2 名

◆ 第 62 回重度・重症児（者）医療・療育（基礎）講習会

5 月 12 日～15 日

介護福祉士 1 名

◆ 平成 27 年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会

5 月 15 日～16 日

看護師 1 名

◆ 平成 27 年度第 1 回施設長・職員研修

	6月 10日～11日	介護福祉士	1名
◆	平成27年度感染症予防研修（前期）		
	6月 15日	介護福祉士	1名
◆	第79回重症児（者）肢体不自由児等看護師講習会		
	6月 16日～19日	看護師	1名
◆	ME技術講習会		
	6月 21日	看護師	1名
◆	平成27年度九州沖縄重症心身障害施設経営研究会		
	7月 2日～3日	看護師	2名
◆	平成27年度 児童福祉施設新任職員研修会		
	9月 8日	看護師	4名
		介護福祉士	2名
◆	平成27年度 全国重症心身障害児者施設職員研修会「看護師コース」		
	9月 9日～11日	看護師	1名
◆	第60回 西日本肢体不自由児施設運営研究会		
	9月 10日～11日	看護師	2名
◆	第34回 九州身体障害児者施設研究大会		
	9月 10日～11日	看護師	1名
		介護福祉士	1名
◆	第45回 重症障害児（者）医療看護師 講習会		
	9月 11日～13日	看護師	1名
◆	第37回 看護指導者講習会		
	10月 6日～9日	看護師	1名
◆	第60回 全国肢体不自由児療育研究大会		
	10月 15日～16日	看護師	2名
◆	第84回 肢体不自由および重症心身障害の児童に関わる看護師講習会		
	10月 20日～23日	看護師	1名
◆	平成27年度全国重症心身障害児者施設職員研修会看護管理研究会コース		
	10月 28日～30日	看護師	1名
◆	平成27年度 第35回全民連中堅職員研修会		
	10月 29日～30日	看護師	1名
◆	第100回 摂食指導（基礎・実習）講習会		
	11月 10日～12日	介護福祉士	1名
◆	第36回 日本重症心身障害福祉協会西日本施設協議会総会		
	11月 19日～20日	看護師	1名

- ◆ 平成 27 年度 感染症予防研修（後期）
11 月 26 日 介護福祉士 1 名
- ◆ 平成 27 年度 リスクマネジメント研修
12 月 21 日 22 日 2 月 15 日 看護師 1 名
- ◆ 平成 27 年度 久留米市医療安全対策研修会
12 月 10 日 看護師 1 名
- ◆ 第 64 回 重度・重症児（者）医療・療育（基礎）講習会
2 月 16 日～19 日 介護福祉士 1 名
- ◆ 平成 27 年度 第 2 回施設長会並びに施設長・職員研修会
3 月 28 日 看護師 1 名

育成部育成課

《概況》

なかよし寮、おひさま寮、ともだち寮、それぞれの利用者様へ、よりよいサービスと自己決定の実現に向けた生活援助を心掛けた。個別支援計画に基づき、充実した毎日を過ごせるように、利用者様一人ひとりのニーズに応えるべく園内外の活動や季節毎の行事、各種のレクリエーションを計画実施した。

法人全体での行事としては、7 月の盆踊り・花火大会に、10 月には、新築移転後、初めての大運動会に多数参加した。

運動会に代わる行事として実施してきた合同レクリエーション会も継続行事として、6 月と 3 月に計画をしたが、感染症拡大防止対応の為中止となった。次年度も開催の方向で検討する。

【なかよし寮】

今年度は利用者一人一人の処遇が低下しないように、充実した毎日を送れることを目標として、個別支援計画に基づき、活気溢れる処遇を心掛け展開した。

学卒の利用者様には、全体的活動や個々の活動（趣味活動・個別活動・月 1～2 回の午前バス外出）などの内容を工夫して実施した。

就学児の利用者様には、季節毎の風景を楽しみながら登下校に心掛けた。又、特別支援学校との連携を密にし、学業の向上と日常生活に必要な動作や精神的発達を促す取り組みを行ってきた。更に、特別支援学校の休みを利用して、土曜日の午後にドライブ外出を月に 2 回程度実施した。

(園外活動)

身体者体育大会	4/26 (日)	3名
ゆめタウン	5/26 (火)	2名
午前ドライブ	8/10 (月)	6名
買物外出	8/17 (月)	3名
ゆめタウン	8/25 (火)	4名
焼肉招待	8/28 (金)	11名
久留米児相交歓大会	10/24 (土)	3名
みかん狩り	11/16 (木)	8名
ミュージックフェスティバル	2/ 7 (日)	7名
学童児土曜ドライブ	月 1~2回	3名
学卒者午前ドライブ	月 1~2回	6名

(園内活動)

花祭り	4/11 (土)	全員参加
端午の節句	5/ 9 (土)	全員参加
七夕	7/ 4 (土)	全員参加
茶話会	7/17 (金)	学卒者
調理実習	8/19 (金)	8名
お楽しみ会	9/ 1 (火)	全員参加
クリスマス会	12/24 (木)	全員参加
成人の祝い	1/13 (水)	学卒者
節分	2/ 6 (土)	全員参加
ひな祭り	3/ 5 (土)	全員参加
茶話会	3/28 (月)	全員参加
誕生会	第3土曜日	全員参加

(ボランティア・慰問)

アレンジ教室	毎週木曜日	希望者
生花教室	毎月第2火曜日	希望者
音楽教室	毎月第2金曜日	11名
理容ボランティア	1.5ヶ月毎	全員対象
K2 バンドコンサート	9/ 5 (土)	全員参加

【おひさま寮】

(生活援助)

今年度おひさま寮では、ユニットケアを行い、グループ活動、個別活動が各ユニットで行なえるようになった。ユニットケアを行うことで、個別支援計画にのっとった活動や対応ができるようになりサービスの向上に繋がっていると思われる。又、食事の経口摂取の利用者様、注入者の生活パターンにより合った日課の組み替えを行い同時に、経口摂取者の場合ゆとりある食事環境、注入する環境を整えていくことが大切だと思われる。

◎ 慰安・娯楽

(活動内容)

4月	花祭り	(全員参加)	ドライブ外出	(4名)
5月	端午の節句	(全員参加)	ドライブ外出	(4名)
6月	ドライブ外出	(8名)		
7月	七夕まつり	(全員参加)	盆踊り大会	(一部参加)
	ドライブ外出	(4名)		
8月	ドライブ外出	(8名)		
9月	ドライブ外出	(4名)		
10月	運動会	(一部参加)	ドライブ外出	(2名)
12月	クリスマス会	(全員参加)	ドライブ外出	(2名)
1月	ドライブ外出	(1名)		
2月	節分	(全員参加)		
3月	ひな祭り	(全員参加)		

その他主な活動

- ・毎月第3水曜日誕生会(全員参加)
- ・集団レクリエーション(週2回)
- ・幼児保育(週5回)
- ・理容(月1回程度)
- ・音楽活動(日常的に)

【ともだち寮】

(生活援助)

利用者様へのよりよいサービスの向上を考えていく中で、あらためて利用者本位のサービスとは何かを、利用者の目線に立ち戻り、考える必要性を感じている。

この一年振り返る中で、園内行事・園外行事の充実も重要だが、日常的な食事、入浴、余暇時間の活動などへの細かい配慮が、マンネリ化を含めた部分で、改善の必要性を感じられた。

園内活動では、例年どおりではあるが、一年の中でも季節を感じられるメリハリのある行事に取り組み、利用者様の意見も取り入れながら内容の充実をはかり、個別外出では利用者様、又ケース担当者の意見を反映し取り組んでいる。

今年度の一つの動きとして、利用者様の自発的な動きを重視し、身体機能の維持を目的として、フロアでの活動の頻度を高めることを心がけて来たが、安全管理上問題点も浮かび上がっている。今後も改善を繰り返しながら、取り組んでいき、同時に業務内容の合理化もカンファレンス等にて取り上げ、サービスの向上に繋がるよう努めていきたい。

(園外活動)

(1) ドライブ外出(土曜PM)〔年間一人2回〕		各2名参加
(2) 久留米児童相談所管内交歓大会(久留米自衛隊体育館)		
	10/24	3名参加
(3) 身体障害者体育大会	4/26	3名参加
(4) 施設訪問	6/29	2名参加
(5) 公園外出	4/21, 4/24, 9/18, 9/18, 11/10, 11/26, 3/24	14名参加
(6) 買い物外出	5/22, 6/26, 8/10, 1/29	8名参加
(7) カラオケ	6/26, 2/12	4名参加
(8) 大昌園焼肉招待	8/24	3名参加

(園内活動)

(1) 花祭り	4/ 8 (水)	全員参加
(2) 端午の節句	5/13 (水)	全員参加
(3) 七夕	7/ 8 (水)	全員参加
(4) お楽しみ夕食会	9/30 (水)	全員参加
(5) クリスマス・プレゼント	12/24 (木)	全員参加
(6) クリスマスお楽しみ会	12/25 (金)	全員参加
(7) 節分	2/ 3 (水)	全員参加
(8) 雛祭り	3/ 2 (水)	全員参加
(9) 誕生会	毎月第三水曜日	全員参加
(10) グループ活動	月, 火, 木, 金 (午前)	4~6名参加
(11) 生花教室	毎月第四火曜日	4名参加

(生花教室メンバー11名~年間一人4回実施)

<実習生の受け入れ 3寮分>

・精華女子短期大学	58名	・中村学園大学	8名
・西九州大学	4名	・中村学園大学短期大学部	7名
・西九州大学短期大学部	5名	・福岡こども短期大学	4名
・純真短期大学	16名	・久留米大学	6名
・香蘭女子短期大学	48名	・九州大谷短期大学	6名
・福岡女子短期大学	4名	・福岡女学院大学	4名
・筑紫女学園大学	2名	・福岡教育大学	4名

<出張関係>

第52回福岡県身体障害者体育大会引率役員連絡会議

クローバープラザ (福岡県春日市) 育成員1名

久留米児童相談所管内児童交流交歓大会実行委員会

久留米児童相談所 (福岡県久留米市) 育成員1名

福岡県身体障害者施設協議会 第1回研修委員会

クローバープラザ (福岡県春日市) 育成員1名

社会福祉施設研修会 新任職員研修

クローバープラザ (福岡県春日市) 育成員1名
保育士2名

第1回 児童福祉施設連絡協議会意見交換会

久留米児童相談所 (福岡県久留米市) 保育士1名

社会福祉施設研修会 新任職員研修

クローバープラザ (福岡県春日市) 育成員1名
保育士2名

福岡県身体障害者施設協議会 第2回研修委員会

クローバープラザ (福岡県春日市) 育成員1名

重症障害児者療育職員講習会

心身障害児総合医療療育センター (東京都) 保育士1名

福岡県身体障害者施設協議会 第1回施設長・職員委員会

(福岡糸島市) 育成員2名

児童福祉施設新任職員研修会

久留米児童相談所 (福岡県久留米市) 育成員1名
保育士2名

第60回 西日本肢体不自由児施設運営研究会

(島根県松江市) 育成員1名
保育士1名

第 34 回 九州身体障害児者施設研究大会 (熊本県熊本市)	育成員 1 名
SWE 支援ネットワーク会議 聖ヨゼフ園 (三井郡大刀洗町)	育成員 2 名
第 35 回 全民連中堅職員研修会 (広島県広島市)	育成員 1 名
相談支援従事者初任者研修会 (北九州市戸畑)	育成員 2 名 保育士 2 名
第 35 回 九州身体障害児者施設研究大会第 1 回実行委員会 クローバープラザ (福岡県春日市)	育成員 1 名
第 51 回 肢体不自由児施設・重症障害児者等療育職員講習会 心身障害児総合医療療育センター (東京都)	保育士 1 名
福岡県強度行動障害支援者養成研修 福岡市立心身障がい福祉センター (福岡県福岡市)	保育士 1 名
第 4 回甲種防火管理新規講習 広域消防本部 (福岡県久留米市)	育成員 1 名
第 3 回 児童福祉施設連絡協議会意見交換会 久留米児童相談所 (福岡県久留米市)	育成員 1 名
福岡県強度行動障害支援者養成研修 福岡市立心身障がい福祉センター (福岡県福岡市)	保育士 1 名
全国重症心身障害児者施設職員研修会「保育士コース」 山西福祉会館 (大阪府大阪市)	保育士 1 名
福岡県児童発達支援管理責任者研修 クローバープラザ (福岡県春日市)	保育士 1 名
福岡県サービス管理責任者研修 クローバープラザ (福岡県春日市)	育成員 2 名
リスクマネジメント研修 福岡県商工会議所ビル (福岡県福岡市)	育成員 1 名
SWE 支援ネットワーク会議 若楠療育園 (佐賀県鳥栖市)	育成員 3 名
リスクマネジメント研修 福岡県商工会議所ビル (福岡県福岡市)	育成員 1 名
福岡県児童発達支援管理責任者研修	

クローバープラザ	(福岡県春日市)	保育士 1 名
福岡県サービス管理責任者研修		
クローバープラザ	(福岡県春日市)	育成員 1 名
福岡県身体障害者施設協議会	第 3 回研修委員会	
クローバープラザ	(福岡県春日市)	育成員 1 名
福岡県身体障害者施設協議会	第 2 回施設長・職員委員会	
クローバープラザ	(福岡県春日市)	育成員 2 名

心理療育部

《概況》

平成 27 年度は心理療育部、相談援助課として、一般生活援助業務との一部兼務で心理的援助活動を業務指針に基づき展開した。主な内容は、利用者の日常生活の観察、触れ合い並びに治療・検査場面を通じて心理的関係性をつくることである。また重症児・者に対しては、他領域との連携のもと心理的側面から、適正ポジショニング活動やタッチケア、「いい表情づくり」活動などを通じ、個としての尊重を基本として業務を行った。

地域支援としては、子どもの発達や母親の子育てなどの心理相談の要請に対し、市町村と連携・協力しながら相談支援・発達支援を実施した。それに伴い、外来診察及びコア園利用案内さらに直接的心理相談や外来での心理療育につなげるケースも増加した。保育所等巡回支援事業においても相談ケースは増加している状況である。また、今年度より、久留米市の親子のびのび教室（田主丸）と久留米市乳幼児健診（南部）が加わり、12 月よりうきは市すくすく発達相談の回数が増加した。

《心理療育・相談援助の内容》

「落ち着いているか」「安心しているか」を治療の基点として「人と関われるか」「関わりは適切か」更に「楽しんでいるか」「喜んでいるか」との相互機能関係により個々のニーズに応じ、絵画表現療法、箱庭療法、抱っこ法・タッチケア、遊戯療法・行動療法、カウンセリング、感覚統合法、知育活動、音楽療法などを施行した。心理的関わりの中で、寄りかけられる存在として、日常の触れ合い、遊び、介護、その他を通じての信頼関係作りが主要テーマである。

地域における相談活動においては、母子並行面接を基本として、限られた時間の中でいかに信頼関係を作り、悩み・心配・不安に寄り添い共感的援助をしていけるか

を目標に、判定並びに相談支援を行った。

【なかよし寮】

- ① 遊びを媒介とした自己表現（投影・情緒解放）
- ② 発達援助＝知育活動（情緒安定を基盤とした認知学習）・感覚運動
- ③ 面談援助 解決→解消（うなづく・聴く・心の汲み取り・共感・発散・個としての尊重）
- ④ 困った行動（表現として捉える）癖・攻撃・発熱・下痢・身体表現等の理解
- ⑤ 音楽療法
- ⑥ 散歩（寮内・園内・園外）
- ⑦ タッチケア・マッサージ
- ⑧ 知能検査・発達検査
- ⑨ 自由訪室

【おひさま寮・ともだち寮】

- ① 多動・興奮行動への対応 散歩法 ―エネルギーの解放―
- ② 腹臥位を基点としたポジショニング（活動協働）
- ③ 面談（心のエントツそうじ・表出能力に応じた受けとめ）
- ④ 音楽療法
- ⑤ 介護支援
- ⑥ タッチケア、絵本、絵カード、語りかけなど「いい表情づくり」活動
「集団の中での個としての尊重」
- ⑦ 知能検査・発達検査
- ⑧

【児童発達支援センター コアラ園】

- ① 発達支援（個別・集団）
- ② 遊戯療法（感情表現・認知発達・感覚調整）
- ③ 母親等へのカウンセリング（子どもの理解～プラス面へのスポットライト）
- ④ 行事（計画立案・実施）
- ⑤ 就学・就園（保育園等）相談援助
- ⑥ 知能検査・発達検査

【千歳療護園・第二千歳療護園】

- ① 面談活動（カタルシス）
- ② 散歩療法（発散・リフレッシュ）

- ③ 表現療法（遊び活動・自己表現・生きがい・興味拡大・信頼関係）
- ④ ポジショニング（リラクゼーション・慢性痛の軽減・QOLの拡大等）
- ⑤ 前頭前野活性化法（読み聞かせ・公文カード・ドリル等）
- ⑥ 介護全般
- ⑦ メンタルヘルス（外出・カウンセリング）
- ⑧ 環境調整、その他

【耳納学園】

自己決定やプライバシーの尊重という立場から今年度は業務展開はない。

《治療対象児・者》

日常の行動観察、生育歴、身体障害の程度、家庭環境などから、精神的サポートの必要性和質に応じて、下記人数に対し、定期的あるいは不定期的に行った。心理的対応の特殊性から、臨時・緊急の場合も多く、他職種との連携をもとに対応を行った。

※短期利用者を含む 単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	耳納	千歳	計
治療対象児・者 ※	50	40	46	69	0	81	286

《音楽療法対象児・者》

入所においては表出能力に困難のある利用者を優先的に、必要性に応じて下記人数に対して行った。コアラ園・外来においては、医師の指示または保護者からの要望に応じて対応を行った。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	計
音楽療法対象児・者	20	18	14	11	1	64

《心理検査》

知能検査と発達検査は定期的に行い、その他の検査、評価は必要に応じて行った。実施数は下記の通りである。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	千歳	耳納	外来・地域
発達検査	10	5	0	2	1	0	15
知能検査	8	0	2	22	3	0	59
性格検査	0	0	0	0	0	0	0

《地域支援》

地域支援事業は市町村の母子保健活動と連携して展開してきたが、保育所での療育・保育的側面からの心理判定、相談等にも対応した。今後も地域の信頼に適確に応えていく事業展開を目指したい。

今年度より、親子のびのび教室の新たな開催場所として、久留米市田主丸町も加わり、計6か所での支援を行った。うきは市保育所等巡回相談は、12施設を3ヵ月に1度、計4クールで訪問し、園児についての相談・直接的な観察・触れ合いの中で、子どもの行動の理解・対応についての検討を行った。

また、うきは市において2ヵ月に1回のすくすく発達相談が、12月より月1回の依頼があり対応した。久留米市では南部地区の乳幼児健診が新たに実施され、心理相談を担当した。

朝倉市	1歳6ヵ月児健診		計12回 対象者399名うち相談者35名 別件14名	
	3歳児健診		計12回 対象者395名うち相談者62名 別件9名	
	朝倉・杷木健診		計6回 対象者94名うち相談者13名	
	にこにこども相談		計6回 相談者33名	
	療育支援わいわい学級		計24回 参加児 延べ143名	
うきは市	1歳6ヵ月児健診		計6回 対象者244名うち相談者22名	
	3歳児健診		計6回 対象者284名うち相談者27名	
	すくすく発達相談		計8回 20名	
	療育指導教室（たまご・ひよこ・らっこ）		計33回 参加児 延べ233名	
	保育所等巡回相談		計48回	
久留米市	田主丸町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者85名うち相談者13名	
		3歳児健診	計4回 対象者86名うち相談者13名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者4名	
	北野町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者89名うち相談者14名	
		3歳児健診	計4回 対象者95名うち相談者20名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者4名	
	三潁町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者103名うち相談者27名	
		3歳児健診	計4回 対象者96名うち相談者21名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者4名	
	城島町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者71名うち相談者25名	
		3歳児健診	計4回 対象者100名うち相談者19名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者2名	
	南部	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者79名うち相談者18名	
		3歳児健診	計4回 対象者77名うち相談者27名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者5名	
	親子のびのび教室 （本庁/三潁/城島/南部/北野/田主丸）		計35回 参加児延べ168名	
	その他の相談対応（電話・メール・来所・訪問）		計42回	
	コアラ園見学案内	13名	コアラ園心理療育	385回
	外来利用児総数	57名	外来心理療育回数	774回
情報提供書作成数	39件	診察案内	45名	

<出張関係>

- ・児童福祉施設新任職員研修会
- ・社会福祉施設役職員研修：新任職員研修
- ・九州地区 障がい者相談支援事業合同研修会 大分大会

- ・ 27 年度福岡県相談支援従事者現任研修
- ・ 27 年度社会福祉施設役職員研修

訓練部

《概況》

医療療育部門における訓練は、すべて医師の処方に基づき個別で実施、し診療報酬は脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）および運動器リハビリテーション料（Ⅰ）で算定請求した。入所部門において6月、9月、12月、3月、リハビリテーション総合実施計画書を作成した。計画書の説明や交付手順は郵送形式とし、返信用ハガキで同意の返事があった方について、リハビリテーション総合計画評価料を算定した。年間の総収入は1億6093万1050円であった。

コアラ・外来部門は、土曜日の利用者など診察の機会そのものが取れない方もいるため、リハビリテーション総合実施計画書の説明をセラピストが行い、その内容を主治医に確認していただき交付した。

毎月第2火曜日に医師、看護師、保育士、心理士、栄養士および訓練部（PT・OT・ST）のスタッフが出席して、リハビリテーションカンファレンスを開いている。感染症の影響で年間8回であったが、各寮の利用者様の個別のカンファレンスを実施した。

訓練は、利用者の潜在能力や可能性ならびにモチベーションなど多方面から対象児（者）のニーズを見極め、個別に計画を立てて行なうものである。特に、乳幼児期を担当するスタッフは成長や発達全体を深く理解し、幅広く支援する能力が必要である。そこで、児童発達支援センター契約者に対しては発達全体の手助けおよび保護者の指導を目的に、PT・OT・STが密に保護者とコミュニケーションがとれるよう集団でのリハビリテーションではなく個別のリハビリテーションで対応した。

空中懸垂装置にブランコやスイングなどを設置し感覚訓練がより身近になり、利用者のリラクゼーションや非日常的な感覚の提供が行えた。また、関節の拘縮や変形、異常筋緊張、呼吸問題など生活全般に問題を抱えている重度の障がい児（者）に対しては、独自の姿勢保持具を作製し活用するとともに、他部署の職員に対しても姿勢管理や移動・移乗・食事介助などの方法について、イニシアチブを取りアプローチすることで利用者のQOLの向上につなげた。さらに摂食・嚥下機能に問題のある利用者に対しては、嚥下食導入に向けた意識を他部署とともに高め、検討しているところである。

各部門の報告は以下に示す。

● 理学療法

【なかよし寮】

対象 46～8 名に対し、理学療法士が 3～4 名で個別に実施し、利用者 1 名当たりの訓練回数は週 1～3 回、年間訓練実施単位数は 8, 203 単位であった。

対象児（者）を疾患別にみると脳性麻痺が最も多く、その他は脊椎破裂後遺症、レット症候群、頭部外傷後遺症、筋ジストロフィー、マーシャルスミス症候群、精神運動遅滞などであり、他の疾患と重複する例が多い。

訓練内容は、個々のニーズやレベルに合わせた目標を設定し、基本動作訓練、移動能力訓練、筋力増強・持久力訓練、ROM 訓練、ADL 訓練などの運動療法を実施した。今年度は感染症が長期化および拡大し定期的な実施が行えない時期があったものの、概ね利用者の身体能力に大きな変化はなく経過している。

学童児への訓練としては、小学生などの年齢的に若い利用者は身体機能向上や移動動作獲得などを主として行ない、中・高等学校生に対しては卒園後を想定した訓練（ADL 訓練・買い物外出・園外活動）を提供することで、社会参加・自立に向けて意識を高め、卒園後の生活に順応できやすいように努めた。

学卒者への訓練は身体機能の維持向上を図ると共に、屋外への外出や複数の利用者と合同で実施するなど固定したプログラムにならないように心掛けた。また、各利用者に車椅子や装具、姿勢保持器具などを随時検討、作製し環境面からの援助も行っている。

今年度は空中懸垂装置を利用し荷重免荷による運動機器を作製し、立位や運動を促した。このことで利用者様が今までできなかった運動（ジャンプや立位でのボール遊びなど）を体験することができ、体幹・下肢筋力の増強や荷重感覚の育成を行うことができた。

これらの個別・年代別に対応した訓練により、移動動作や排泄動作の向上・獲得がみられる例もあり、少しずつ成果が現れている。

今後は他職種や特別支援学校とより連携を図ることでニードや問題点を的確につかみ、現状に合ったより良い訓練・療育を行なうよう心掛ける。

【おひさま寮】

対象 40 名に対し理学療法士 2 名で実施（6 月～9 月までは、理学療法士 1 名で対応）。年間訓練実施単位数は、5, 194 単位であった。

対象児（者）は、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいを重複している人が多く、加齢に伴う身体機能面の低下や筋緊張の亢進など様々な原因により、非

対称姿勢をとることが多く、変形・拘縮の要因となっている。また、人工呼吸器での呼吸管理や胃瘻の方が増しており、日常生活は全介助を要しリスク管理は非常に重要である。

訓練内容は、ROMex を中心にマッサージ、リラクセーション、ポジショニング、現在の機能の維持および基本動作の維持・向上、排痰や呼吸介助（スクイーピング）などの理学療法を行った。また毎年1回、個人の身体機能面の評価としてROMの計測をOTと共に実施。今後、どのようにこの数値的なデータを利用者の生活に活かしていくのか、来年度に向けて新たに評価の検討を実施。

利用者40名全員を対象に、他職種と情報交換をおこない協力しながら、姿勢ケアを促し、情報共有できるように寮内のカンファレンス時に車椅子の姿勢やポジショニングなどについて説明を行った。また、クッションにて個々にあったプロンキーパー・頭部保持クッションや側臥位保持用クッションを作製し、リラクセーション・排痰・側彎変形・拘縮の進行予防に努めた。学童児に対しては、運動機能や認知機能面の向上を目的に、OT・特別支援学校の担任教諭と情報交換を行い、それによって、利用者一人ひとりにあったQOL向上を心掛けた。

【ともだち寮】

利用者43名に対し理学療法士3名(内1名はコアラ園と兼任)で行い、年間訓練実施単位数は6,602単位であった。今年度においては感染症が拡大することなく、各利用者ともに定期的に訓練を実施することができた。

利用者の疾病状況は脳性麻痺（および関連疾病の重複障がい者含む）72%、その他、化膿性髄膜炎後遺症、脳損傷後遺症、脳炎後遺症、視力障がい28%となっている。

壮年期・中年期の利用者が多く、年々、四肢の関節可動域や筋力の低下は加速する傾向にある。また、ご自身での姿勢管理が困難な利用者様も多く、変形の増悪や関節拘縮・褥瘡を引き起こしやすい。さらに、自発的な運動も少なく、体重増加や循環障がいによる四肢の浮腫などにも注意を要する。

そのためリハビリテーションの内容は、四肢の関節可動域運動やポジショニングによるリラクセーション、歩行や車椅子駆動などの自力移動訓練を行なった。

姿勢管理が困難な利用者様には、それぞれの身体に合うクッションを作製し、姿勢のバリエーションの増加や車椅子上やベッド上での姿勢管理に努めた。

また歩行能力が高い利用者様を対象に、OT・STと連携して、月1～2回の頻度で地域の公園や名所を歩いて散策し、活動量の充実に努めた。

4月に開催された身体障害者スポーツ大会においては、ともだち寮利用者3名が出場し、生き活きと競技に参加された。その内、昨年からの優勝を目標において意欲的

に練習に取り組まれた利用者は、努力が実り優勝を果たすことができ、大きな達成感と自信を得られたようであった。

● 作業療法

【なかよし寮】

対象者 1 人当たりに対し、作業療法士 3 名（コアラ園との兼任 1 名）が週 1～3 回個別で行い、年間訓練実施単位数は 5,164 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、広汎性発達障がいなどである。

訓練内容は、身体機能面（特に上肢機能）の向上および維持を目的に、ROMex やリラクセーション、玩具や感覚遊び、作業活動を媒介としたアプローチを行なった。また、身の回りの動作の向上を目標に周辺環境の調整も行いながら、直接的かつ反復した取り組みを行った。

学卒者に対しては、余暇活動の一つとして週 3 回の集団活動（①集団で場を共有しての個別活動、②集団での製作活動、③3 寮合同）を行なった。なかよし寮利用者を対象とした集団の場では活動の選択、役割分担を促していく中で、利用者同士の声掛けや自己主張、互いに称賛する場面もよく見られた。しかしながら作業療法士 1 名が、年度途中より出産に伴う休暇により存続が困難となったために現在休止している。3 寮合同のグループ活動では、それぞれ特徴的な障がいがあるにも関わらずゲームや感覚遊びなどを行い、楽しみを共有・共感できる場として活用した。

その他、一部の学童児の利用者に対しては、自立支援を目的に園外活動（買い物）を行った。入所の利用者にとっては非日常的な体験の中で社会経験を積んだことで、自身の課題にも気付く機会になっている。また、社会に出ていく利用者にとっては、社会との接点を持つことが自信に繋がっている。

【おひさま寮】

対象 40 名に対し、作業療法士 2 名が週 1～2 回個別で実施し、年間訓練実施単位数は 6,304 単位であった。対象児（者）は、重度の運動機能障がいや重度の知的障がいを重複した人が多く、視力障がいや嚥下障がい、加齢にともなう身体機能の低下や変形・拘縮など、それぞれ多岐多様な問題を抱えており、症状も重度化している。

訓練内容としては、身体機能の維持、日常生活動作（以下 ADL）の改善、精神面の安定を目的に関節可動域訓練、ADL 訓練（食事動作）、集団活動、感覚訓練（トランポリン、スイング）などを行った。また、寮内での生活が中心となっている利用

者に対し、他寮や屋外への散歩を行うことで、環境変化による感覚的な刺激を経験し、四季それぞれの季節感や自然環境を感じてもらった。さらに、寮内での製作活動として、てるてるぼうず・ステンドグラス風飾り・門松・貼り絵による鬼・おたふくなどを行った。セラピストが介助しながら、できる範囲で作業に参加してもらい、全員で一つの作品を作り上げた。

集団活動では、普段あまり関わることのない他寮の利用者と楽しみの共有を目的として、3寮合同のグループ活動を実施した。今年度は感染症の関係で集団活動の時間は少なかったものの、トランポリンなどの感覚遊びやゲームをはじめ、野菜作り、水遊びなどの季節を感じることができる活動、しめ縄作りをはじめとした製作活動など様々な活動を行うことができた。活動を通して、利用者同士の交流や楽しい雰囲気味わうことができ、病棟ではみられない利用者の表情や反応を見ることができた。

【ともだち寮】

対象 44 名に対し、作業療法士 2 人で週 1～2 回実施し、年間訓練実施単位数は 7,502 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。年々、加齢に伴う身体機能の低下や変形・拘縮もあり、ADL 動作の低下が見られている。

訓練内容としては、身体機能や ADL 動作、認知機能の維持および向上、情緒の安定やリラクゼーションを目的に行なった。その手段として ROMex や ADLex（食事、更衣、整容）、感覚遊び、製作活動、集団活動などを用いた。

集団活動としては①他寮の利用者と合同での集団活動。②PT・ST と合同でのともだち寮で利用者 5 名の小集団での活動を行なった。①では製作活動や感覚遊び、歌やゲームを行なってきた。②では歩行可能な利用者を対象とし、屋外での歩行を主として、7 月～11 月にかけて学園車を利用して公園などに出かけた。車を利用することで揺れや振動、視覚的な変化や加速度を感じることができた。それに加え普段とは違う場所での歩行では、光や風を感じるとともに地域の方と同じ場を共有できたことで社会交流の場にもなった。

個別活動としては、一般道で電動車椅子を利用した買い物訓練や耳納学園に協力していただいた陶芸作品の製作活動など、個々のニーズに合わせた様々な活動を行い、利用者の楽しみや達成感、他者からの称賛、自己実現につなげてきた。また、園芸活動を複数の利用者と協力して行った。季節に合わせた農作物を育てる中で、季節を感じていただき、普段食べている食物にかかっている手間や時間を実感していただくことができた。今年度は新しい取り組みとして、正月用のしめ飾りを製作した。10 月から利用者様個々に合わせた作業工程で、協力により約 30 個を作り上げた。完成したものは、職員や保護者様が購入し、普段は得られにくい“提供する立

場”になることができた。また、そのお金で茶話会を開き、大きな達成感を感じていただけた。

● 言語聴覚療法

【なかよし寮】

なかよし寮の対象利用者は46名であるが、担当者は1名であったため、必要性の高い利用者を中心に、週1～3回訓練を実施した。また、今年度も地域支援事業、児童発達支援センターと兼任し、年間訓練実施単位数は2,628単位であった。

対象児(者)の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心となっているが、精神運動遅滞、ダウン症候群、広汎性発達障がい、先天性緊張性ジストロフィーなど幅広く、発達段階の程度も幅広かった。

重度の知的発達の遅れが見られる利用者に対しては、主にスキンシップ、歌遊び、音遊び、楽器遊び、絵本での読み聞かせなど、楽しくリラックスできる雰囲気の中で、聴覚、視覚、触覚などのさまざまな感覚を用いた関わりを行い、感覚・認知・理解面・表現力(表現方法)の発達を促した。

言語発達の遅れが見られる利用者に対しては、絵本、ままごと、歌遊び、お絵かきといった、遊びを中心とした学習の他に、絵カード課題やマッチング課題、かな文字課題といった机上課題も行いながら、言葉の成長を促した。

音声言語によるコミュニケーションが困難な利用者に対しては、コミュニケーションボードなどの代替手段の工夫やTEACCHや絵カード交換式コミュニケーションシステム(PECS)を用いた視覚支援、手話の学習、その他を行い非言語的コミュニケーション手段の確立、拡大も目指した。

麻痺による発声発語障がいや摂食・嚥下障がいが見られる利用者に対しては、アイスマッサージやバンゲード法などの筋刺激訓練、リラクゼーション、発声発語器訓練、構音訓練、摂食・嚥下訓練などを行った。食事場面では、利用者に応じてPT・OTと相談し、姿勢(車椅子を含めた)や上肢機能の側面から自助具の使用、食形態の検討も行った。特に、成長期にある経鼻経管栄養の利用者に対しては、段階的に食事の形態を上げつつ、様々な味を経験してもらい、食べることに対する意欲の向上が見られるよう、他のスタッフとも頻繁に情報交換を行いながら、検討を行った。また、寮内における摂食・嚥下委員会を定期的に行い、利用者の摂食・嚥下評価や病棟スタッフの摂食・嚥下に対する意識の向上に努めた。

【おひさま寮】

必要性の高い対象者を中心に言語聴覚士1名で週1～3回個別に実施した。年間訓練実施単位数は3,471単位であった。

対象の病名・障がい名としては、脳性麻痺、精神(発達)遅滞などを中心とした身体障がいと知的障がいを併せ持つ重度の重複障がいである。

訓練内容は、口腔機能訓練（口腔とその周辺のケアや活性化を含む）、摂食・嚥下訓練、発声発語器官に対しての筋刺激訓練やマッサージ、ストレッチ、リラクゼーション、構音訓練、言語発達を促す訓練、コミュニケーション訓練、音声や音楽を用いた聴覚的な刺激による訓練などを行った。

摂食に関しては、広く摂食・嚥下に関する器官に対しての感覚訓練、筋刺激訓練、マッサージ、ストレッチ、脱感作や味覚学習などの口腔内感覚の改善、食物を直接用いない間接嚥下訓練、摂食・嚥下機能そのものの維持・改善訓練、介助法の改善、食形態の調整、頸部や体幹の座位姿勢の調整、姿勢を安定させ筋緊張を緩和するためのクッションなどの調整、他職種に対して情報の伝達、食べ物に対する心理的拒否に対して安心して食べられるためのアプローチなどを行った。これらを通じて摂食・嚥下機能の維持・向上を行い、安心して快適にスムーズに食事ができるための支援を行った。

おひさま寮の最重度の心身障がい児（者）に対して、リラックスした楽しいかわりの中で、心地のよい聴覚的刺激・視覚的刺激や身体的感覚などを充足させるアプローチを通して、心身が満たされゆったりと落ち着くことができるような関わりを持ち、感覚・認知・理解面の成長も促した。

今年度も iPad やパソコンなどの機器を用いて、重度心身障がい児（者）でも楽しみ使用可能な機能を使って効果的に発達を促し生活の充実を目指した。

呼吸器系障がいに対しては、排痰、口腔内清掃やマッサージなどによる口腔内機能の活性化および顔面の固縮の予防を行っている。呼吸器やその関連する器官の環境を整え、できる限り状態を改善して、穏やかに生活できるよう支援を行った。

【ともだち寮】

対象 30 名に対し言語聴覚士 2 名で個別訓練を毎回 1～3 単位、月に 1～2 回ないし週に 1～2 回実施した。年間訓練実施単位数は 3,780 単位であった。

対象者は脳性まひ、精神遅滞、てんかんなど症状は様々で、年齢も 10 代から 60 代と広い年齢層でのアプローチを行なった。

歩くことや話すことが難しい利用者に対しては、コミュニケーションボードの練習やパソコンのスイッチの使用を行った。また、iPad やスイッチを使って自分で機器を操作して、主体的にコミュニケーションし、楽しく活動をする取り組みを行ない、写真撮影や音楽鑑賞を行っていただいた。身体障がいによりナースコールを使用しにくい方に対しては、特殊型ナースコールの作製および操作練習を行った。

摂食・嚥下に関しては、食事の中で機能を引き出す訓練、介助法の改善、姿勢の

調整、食形態の調整、使用する食器具の検討などを行った。特に経管栄養の利用者へは口腔機能の維持や唾液の誤嚥による誤嚥性肺炎予防のため、口腔ケアやマッサージ、嚥下反射を促す訓練などを行った。

音声言語面の訓練としては、構音訓練、会話や発声、唄を歌うことによる発声発語器官の運動による訓練などを行った。

『コアラ園及び外来』

● 理学療法

対象 66 名（契約利用者 8 名、外来利用者 58 名）に対し、理学療法士 1 名を中心に実施し、利用者 1 名当たりの訓練回数は週 1～2 回、年間訓練実施単位数は 3,847 単位であった。

対象児（者）は、脳性麻痺による重症心身障がいや肢体不自由児、精神運動発達遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどとなっており、年齢も 1 歳の幼児から成人までと幅広い。

理学療法の内容として、乳幼児期から学童期においては、運動発達の促進や基本動作能力の獲得を目指し実施した。

自助具や姿勢保持用クッションの作製、福祉機器（ウォーカーや装具）の提案を行ない作製し、豊かな遊びが経験できるよう場面に応じて使用していただき、身体機能面の向上だけでなく、情緒面の発達および生活場面の中での自立を促した。また、保育所や保護者の協力を得て、自発的に移動する機会を作ることで、他者との交流および危険な場所を避けるなど、運動機能の向上だけでなく、言語面や認知面の向上にもつながった。

学童期から青年期以降には、運動機能の維持、二次障がいの予防、介助者の介助量軽減などを目標に、特別支援学校や地域の小学校の先生と情報交換を行ない、個々のニーズに合わせた支援を行なった。重症心身障がい児（者）においては、二次障がいによる脊柱の変形や運動機能の低下を予防する目的で、側彎の評価や下肢を中心に関節可動域の測定を年末から年度末にかけて実施した。第二次成長期に伴い、脊柱の変形による側彎の進行や下肢の関節拘縮が認められる方が増えている状況である。理学療法としては、クッションを作製し、腹臥位による姿勢ケアや排痰の喀出を促した。また、姿勢筋緊張を緩和しリラクゼーションや股関節を中心に関節可動域運動やストレッチを行ない、脊柱の変形や関節拘縮の予防に努めた。さらに、保護者へ日中の姿勢ケアのアドバイスや支援学校の先生方と姿勢や身体機能面について情報の共有を行ない、目標を一つに取り組んだ。身体機能面を維持し、介助量の軽減やレスパイトケアなどの福祉サービスの提供について、地域事業部の夢の紀のスタッフと連携を行なうなどの、多面的な支援も行った。

その他として、耳納学園の利用者には、運動能力の維持のため定期的なリハビリテーションを実施した。ADL 面を中心に組み、生活に必要な動作を取り入れ練習した。

● 作業療法

対象 124 名（契約利用者 46 名、外来利用者 78 名）に対し、作業療法士 2 名を中心に実施し、利用者 1 名当たりの訓練回数は週 1～2 回、年間訓練実施単位数は 5, 758 単位であった。

対象児（者）は発達障がい（自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動症）、脳性麻痺、神経筋疾患、さらに精神運動発達遅滞など多岐にわたり、幅広い対応が必要となっている状況である。

訓練内容は、トランポリンやボールプール、スイングなどの遊具遊びを中心とした運動活動やままごとなどのやりとり遊び、作業活動を通じて、こどもの発達課題（運動面・日常生活技能・学習基礎能力）や、現在から将来にわたる生活面に着目・考慮し、個々の必要性に応じた取り組みを実施した。また、日常生活で配慮すべき点や介助方法などはもちろんのこと、保護者に対し我々スタッフも理解者としての立場を大切にしながら話を聞き、助言・アドバイスを行ってきた。

訓練場面以外でも日常生活で主となる保育園・幼稚園・学校の先生方との情報交換・共有を行ない、お互いの療育に活かせるように努めた。さらに、小学校就学を控え通園部門を卒園される児童の進路に関わる各関係機関に情報提供を行い、卒園後の支援についての提案や意見交換にも取り組んだ。

● 言語聴覚療法

対象 176 名の外来利用者に対し、週 1～2 回、1 回 2 単位(40 分)を基本として、言語聴覚士 3 名を中心に訓練を実施した。年間訓練実施単位数は 8, 038 単位であった。

対象児（者）は発達障がい(自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動症、学習障がい)、言語発達遅滞、精神運動遅滞、構音障がい、脳性麻痺、ダウン症候群、摂食・嚥下障がい、難聴、吃音と多岐に渡り、年齢も 1 歳の幼児から成人までと幅広い。近年は特に自閉症スペクトラム障がいを主とする利用者が増加傾向にある。

訓練において、観察や情報収集、各種検査結果をもとに評価し、訓練プログラムを立案し実施した。情報収集時には保護者だけでなく、保育園・幼稚園・学校の先生方とも情報交換を行い、療育に活かせるように努めた。また、地域事業部、心理との連携を密にし、情報を共有することで、より必要な支援を立案し提供することに努めた。

訓練内容は、利用者一人ひとりの状態に応じて、机上課題や遊びを中心とした課

題などを選択し、言語面・コミュニケーション面の能力向上を目標に実施した。摂食訓練の際には、給食時間への介入、定期的な評価、訓練、指導を行なった。訓練場面だけでなく、就学後の定期的なフォローや、対象児（者）への接し方の指導、問題とされる行動が見られる理由の分析から環境調整のアドバイス、構音訓練の宿題の提供。また、利用者と共に保護者(支援者)の想いも受け止めるなど、日常生活場面においても、対象児（者）の成長につながるよう努めた。さらに、聴覚スクリーニング検査や、他医療機関との連携にも積極的に取り組んだ。

<地域支援事業等>

1. 肢体不自由児早期訓練事業（県肢体不自由児協会委託、飯塚市）
 医師 1名・・・2回 PT、OT 各1名・・・22回 ST 1名・・・12回
2. 子どもの療育相談（上陽町）
 OT 1名・・・14回
3. 朝倉市乳幼児発達診査（朝倉市環境福祉事務所委託、朝倉市）
 ST 1名・・・4回

<実習生の受入状況>

【理学療法士】

平成27年 4月 13日	～	6月 20日	麻生リハビリテーション大学校	1名
5月 11日	～	7月 11日	柳川リハビリテーション学院	1名
5月 11日	～	7月 11日	熊本総合医療リハビリテーション学院	1名
7月 6日	～	9月 12日	麻生リハビリテーション大学校	1名
7月 27日	～	9月 26日	熊本総合医療リハビリテーション学院	1名

【作業療法士】

平成27年 8月 3日	～	10月 10日	麻生リハビリテーション大学校	1名
施設見学				
平成27年 6月 19日			麻生リハビリテーション大学校 昼間部	40名
平成27年 7月 3日			麻生リハビリテーション大学校 夜間部	21名

【言語聴覚士】

なし

《概況》

地域事業部は地域・社会の多様なニーズや問い合わせに対し、法人内全事業所機能の紹介並びに利用までの手続き等の説明、更に施設利用については当該者と法人内事業所間の連携や調整を図る目的で機能してきた。

地域・社会からの相談や問い合わせの内容は、入所や短期入所、日中一時預かりなどの施設利用目的のもの、児童発達支援センターや外来リハにつながる療育目的のもの、それらに付随する送迎支援や見学依頼が殆どである。

対象地域は、久留米市、うきは市、朝倉市及びその近隣地域としているが、対象地域以外からの問い合わせも多数あり、資源不足の現実を感じている。

地域に出向き実施する在宅児支援は既に各部署が取り組んでいるが、主に地域事業部が担う久留米市立屏水中学校におけるタイムケア事業は5年目を迎えた。また、心理療育部やコアラ園保育士を派遣している久留米市、うきは市、朝倉市における乳幼児健診後のフォロー教室等も、順調に取り組んでいる。

＜相談支援事業＞

地域事業部が受け付けた相談や問い合わせは次の表の通りで、ご本人様（ご家族）からの問い合わせが多く、その他は相談支援事業所や行政、医療機関からの問い合わせであった。

問い合わせの内容	問い合わせ件数
① 施設入所利用についての相談	25
② 短期入所・日中一時支援についての相談	29
③ 児童発達支援利用についての相談	23
④ 放課後等デイサービス利用についての相談	5
⑤ 外来療育・リハの利用についての相談	76
⑥ 見学依頼の相談	26
⑦ その他の相談	25

①施設入所については、24件の問い合わせに対して法人全体で3名の入所支援につながっている。施設入所に関する問い合わせは、その大多数が重症の成人の方や介護保険適応クラスの高齢の方であり、療養介護や生活介護への入所を強く希望されても満床の状況であり、待機者リストにあげるにとどまっている現状である。

②短期入所や日中一時支援についての問い合わせでは、重症の方や多動の方、衝動性のある方が多く、在宅での支援の難しい現状がわかる。しかしながら、こちらも、

呼吸管理の必要な方など重症児（者）に対する短期入所の実施が困難な状態下であり、課題といえる。

③児童発達支援については、利用を希望され契約まで至ったケースは6例であった。

④放課後デイサービスは、15時以降の実施はできているものの、希望の多い長期休み中や15時以前の利用が実施できていないため、課題といえる。

⑤外来療育・リハについては、33例が診察を経て訓練部や心理療育部の療育・リハにつなげている。

⑥見学依頼については、インフルエンザが心配される11月から2月の間、団体による見学を制限したり日程や見学ルートの変更はしたものの、すべての依頼に対応できた。

⑦その他の相談は、法人内事業所の受け入れ状況や利用手続き、待機状況の問い合わせが殆どであった。

<予約調整業務>

相談受け付けの後利用を希望されたケースについては、外来や関係部署と連携をとりながら受診日予約及び事前の見学・説明等を行い、利用者にとって少しでも安心してスムーズな利用開始につなげるよう心掛けた。

<在宅支援業務>

地域事業部並びに夢の紀のスタッフを派遣した在宅児・者支援は、次の通りであった。

事業名	実施場所	回数
久留米市タイムケア事業	久留米市立屏水中学校	93
朝倉市療育支援事業わいわい学級	朝倉市ピーポート甘木	24

<施設見学案内>

平成27年度の施設見学に関して、地域事業部が受け付け、あるいは把握している外部の組織・団体は18団体273名であった。内訳は、多くが県内の団体であるが、県外からの見学研修や遠くは北海道からの見学もあった。見学方法は、まず施設の沿革や概略を説明し、本館棟、ゆうかり医療療育センター3寮、地域支援棟・コアラ園、調理環境、千歳療護園、第二千歳療護園、耳納学園の順で巡回・案内した。冬場の案内やインフルエンザ発生時は案内区域を限定して対応した。見学にかかる所要時間は、約2時間を要した。

施設見学の詳細は以下の通りである。

月	日	曜日	時間	団体名	人数
5	26	火	15:30～17:00	医療法人尚恵会富田医院研修生	5
6	18	木	10:00～12:30	久留米市内保育園（特別支援保育研修グループ）	70
6	24	水	14:00～16:00	太白ありのまま舎施設長他職員	2
7	2	木	14:00～15:30	久留米市市議会議員、久留米市障害者福祉課職員	4
7	10	金	10:00～11:30	小郡特別支援学校中学部生徒、保護者、職員	4
7	27	月	13:30～15:00	うきは市小学校教育研究会養護教諭部職員	9
7	29	水	9:30～11:30	県立田主丸特別支援学校教職員、保護者	17
8	21	金	13:30～15:00	福岡市東区第15地区民生委員児童委員協議会	20
9	18	金	10:30～12:00	佐賀整肢学園からつ医療福祉センター職員	5
9	18	金	13:30～14:30	大分県内児童発達支援センター職員	17
10	1	木	10:30～12:30	大野城市手をつなぐ育成会	15
11	11	水	12:00～13:00	佐賀県障害者支援施設瑠璃光苑家族会	14
11	19	木	13:30～15:00	玉名市障害者支援施設たまきな荘職員	5
11	26	木	9:30～11:00	社会福祉法人厚生協会（北海道）理事長他職員	10
12	2	水	10:30～11:30	あまぎ手をつなぐ育成会	7
12	21	月	14:50～15:30	草野校区町づくり振興会	30
2	25	木	10:30～11:30	嘉麻市碓井支部老人会女性部	23
3	24	木	10:00～11:30	久留米市東国分校区社会福祉協議会	16

<出張関係>

9月10～11日	第34回九州障害児者施設研究大会	相談支援専門員1名
10月14、21日	社会福祉士会人権研修ファシリテーター	相談支援専門員1名
11月5～6日	九州相談支援事業所合同研修会	相談支援専門員2名
1月15日、2月4～5日	相談支援従事者現任研修	相談支援専門員3名
2月9日	福岡県相談支援従事者専門別研修（重心）	相談支援専門員1名
3月18日	社会福祉施設役職員研修	相談支援専門員2名

<その他>

- ・久留米市相談支援事業所連絡会（久留米市相談ネット）…11回

- ・うきは市要保護児童策地域協議会実務者会議…3回
- ・うきは市地域障害者協議会…2回
- ・田主丸特別支援学校相談会…3回
- ・ 8月 3日 田主丸特別支援学校地域支援研修会
- ・ 8月10日～12日 田主丸特別支援学校職員の現場実習1名受け入れ
- ・10月 9日 田小児等在宅医療推進事業小児訪問看護研修
- ・11月30日 在宅重症児支援会議
- ・ 3月15日 田精神保健福祉関係機関連携調整会議

給食部（中央給食）

給食部理念：栄養管理・健康管理に努め、真心のこもった調理で食の喜び、
大切さを伝える。

(1) 区分別熱量 (Kcal)

ゆうかり療育センター、耳納学園、千歳療護園の区分別熱量に差があったので、
副食の量をそろえ、主食の量で調節している。

	ゆうかり	千歳	耳 納	
			男	女
中			2,130	
A	2,400	2,000		
B	2,000	1,650	1,740	1,590
C	1,500	1,300		1,450
D	1,250			
E	1,050			

(2) 行事食

平成27年

- 4/ 9 耳納学園開園記念日 バーベキュー、アイスクリーム
- 4/23 千歳開園記念日 花見弁当、紅白まんじゅう
- 6/25 耳納学園夕食会 ソーメン、
巻き寿司、デザート（フルーツポンチ）
- 7/23 盆踊り大会
カレーライス、バナナ
模擬店（焼き鳥、たこ焼き、焼きそば、綿菓子、ジュース）
- 8/13 耳納学園一日レクリエーション バーベキュー

- 8/27 千歳祭 模擬店 (カレー、スイーツ、焼き鳥、アイスクリーム
ところてん、回転焼き他)
- 9/24 耳納学園夕食会 カレーライス、サラダ、プリンかアイス
- 10/18 ゆうかり学園運動会 弁当
- 11/ 3 特別支援学校文化祭 弁当
御飯、焼き肉、南瓜のそぼろ煮、卵焼き、ウインナー、
ブロッコリー、トマト
- 11/26 耳納学園 夕食会 (鍋)
すき焼き、豆乳鍋、しゃぶしゃぶ、味噌ちゃんこ
- 12/10 千歳浮羽消防署指導避難訓練、餅つき慰問
餅 (おろし餅、あん餅) おにぎり
- 12/15, 16, 17 コアラ園 クリスマス会
ローストチキン、ハンバーグ、ウインナー、
ブロッコリー、サニーレタス、ミニトマト、
スパゲティナポリタン、イチゴ
コーンスープ、ケーキ、ミニ菓子パン
- 12/24 ゆうかり医療療育センター クリスマス会
オードブル
ステーキ盛り合わせ
ケンタッキーフライドチキン盛り合わせ、
フルーツ盛り合わせ (苺、メロン、パイナップル)
ケーキ盛り合わせ (マンゴームース、ティラミス、苺ケーキ)、
もつ鍋、枝豆 (なかよし寮)
角煮まん、ぜんざい (ともだち寮)
いなり寿司、おにぎり (なかよし寮、ともだち寮)
茶わん蒸し、ポタージュ、ご飯 (おひさま寮)
- 12/24 千歳忘年会
弁当形式、オードブル、ケーキ、飲み物
- 12/24 耳納学園忘年会、餅つき
ケンタッキー盛り合わせ、ポテトサラダ
焼き鳥、寿司盛り合わせ、フルーツ

平成 27 年

- 1/ 1 おせち料理 (昼)
がめ煮、かまぼこ、昆布巻、エビのつや煮、黒豆、イカの照り焼き、
カニ入り卵蒸し、栗きんとん、紅白なます、干支羊羹、テリーヌ、苺、

サラダ菜、パセリ

- 1/ 7 七草の味噌汁
1/13 千歳どんど焼き ぜんざい
1/21 耳納学園一日レクリエーション (喫茶)
ケーキ3種類、アイス
2/18 耳納学園一日レクリエーション
ラーメン、揚げ餃子
3/24 耳納学園夕食会
てんぷら、けんちん汁、フルーチェ

(3) 研修関係

平成 27 年	5 月	特定給食施設等研修会	(久留米市)
	7 月	定例報告等説明会	(久留米市)
	8 月	特定給食施設等研修会	(久留米市)
	8 月	病院立ち入り検査説明会	(久留米市)
	9 月	西日本肢体不自由児施設運営研究会	(北九州市)
	9 月	九州身体障害児者施設研究大会	(熊本市)
	10 月	全国重症心身障害児施設職員研修会	(大阪市)
平成 28 年	2 月	地域活動栄養士等研修会	(久留米市)
	3 月	重症児(者)食・栄養研究会	(若楠療育園)
	3 月	全国重症心身障害児施設職員研修会 栄養士調理師研修会打ち合わせ	(久山療育園)

(4) 実習生の受け入れ

6/15(月)～6/20(土)

久留米信愛女学院短期大学より栄養士3名

(5) 衛生管理

- ① 食品の納品時、品質のチェックと納品時間記入(冷蔵品は表面温度記入、冷凍・冷蔵品は収納庫の温度記入)
- ② 手洗い液(アルボース)による手洗いとウェルパスによる消毒の励行
- ③ 調理時、中心温度計にて中心温度測定、記入
- ④ 調理の出来上がり時間記入
- ⑤ 調理後、冷蔵庫に入れるものは入れた時間・温度記入
- ⑥ 調理器具やシンクの除菌にアルコール、バリアス1(食品添加物除菌剤)使用

- ⑦ 冷蔵庫の清掃、温度記入
- ⑧ 調理室の温度・湿度記入
- ⑨ 検収室の温度記入
- ⑩ 盛りつけ時、使い捨て手袋、使い捨てマスク使用
- ⑪ 洗浄室、下処理室にて専用のエプロン、スリッパ使用
- ⑫ 水質検査 始業前、終業後に残留塩素測定（毎日）
業者による管理（毎月）
- ⑬ 細菌検査（検便）
腸管出血性大腸菌（O-157 他）を含む病原腸内細菌検査（毎月）
ノロウイルス抗原検査 10月、3月
- ⑭ 業者（トキワビル）によるネズミ・ゴキブリ駆除 毎月

(6) 給食委員会

ゆうかり学園

構成メンバー 所長、事務局長、看護部長、薬剤師
看護課、育成課、訓練課、給食部より代表者
園生代表者（ともだち寮2名、なかよし寮2名）

開催回数 月1回

耳納学園

構成メンバー 利用者様30名、厚生課2名、栄養士

開催回数 月1回

千歳療護園

構成メンバー 利用者4名、総務、医務、サポート係、
パートナー係、訓練、栄養士

開催回数 2ヶ月に1回

内容

各施設で構成メンバーは違うが、毎月の誕生会のメニューを決めたり、行事食の希望、食器について、形態について等利用者様の意見、要望を出してもらって、それについて検討している。誕生月の一品メニューは、ゆうかり医療療育センターと耳納学園は誕生会の日にまとめて出しているが千歳療護園は、各個人の誕生日に出している。直接利用者様の声が聴ける貴重な機会なので今後もいろいろな意見を出してもらって、より良い給食にしていきたいと思っている。

(8) まとめ

ゆうかり学園と千歳療護園は以前は別の厨房で食事作りを行ってきたため

に食器も違って、食事量もそれぞれであった。今回食器の購入をするに当たり、食器を統一して購入した。それぞれの施設で区分ごとの熱量が異なっているので、副食は同じにして、主食の量で調節するようにした。食器は柄がかわいいメラミンに変え、丼などは今までと全く違う形にした。料理の見た目も変わり、気持ちよく食事をしていただいている。

また、食形態について取り組みを行いソフト食の導入に向けて、他部署との連携を取りながら、少人数の人を対象にQC活動で試作を重ねてきた。今後も利用者が安全でおいしい食事を食べて頂けるように取り組みを続けていきたい。

誕生会のメニュー

平成 27 年度

	ゆうかり	千歳	耳納
4月	オムライス	海鮮丼	カツカレー
5月	ちらし寿司	天丼	ステーキ丼
6月	ビビンバ丼	ベジタブルカレー	鶏の竜田揚げ
7月	うな丼	ソーメン	から揚げと ガーリックライス
8月	ステーキ丼	カツ丼	うな丼
9月	ハンバーグカレー	きのこごはん	
10月	オムライス	栗ごはん	親子丼
11月	カツカレー	银杏御飯	牛丼
12月	焼肉丼	おでん	から揚げ
1月	ビビンバ丼	いくら丼	焼肉
2月	天丼	ステーキ丼	塩豚丼
3月	ビビンバ丼	ちらしずし	ステーキ丼

《概要》

本年度の新任職員研修は初めて2回に分け、3日間実施した。上期（4月1日～4月2日）では学園の組織や沿革、各部署の業部など入職にあたっての必要な内容で研修を行い、下期（11月30日）では入職以来の仕事の取り組みや進め方を振り返って現状把握、意見交換などするフォローアップ研修を行った。対象者は、上期26名、下期24名であった。

こもりぐま保育所

本園では、家庭に代わり子供達を預かり家庭内の温かさにより近づけるよう、愛情溢れたスキンシップの保育を目指してきた。健康で意欲的、創造的な心と身体を育成する目的で、戸外活動も取り入れており、自然に恵まれた環境の中、四季折々の果物・花・虫などと触れ合っている。また、毎年恒例のバス遠足と、月1回の買い物は、子供達が楽しみにしている行事のひとつである。

その他、個人の能力、年齢に合わせた生活習慣の習得を子供の発達状態をよく見極めて、無理なく個別指導をしている。そして、集団の中における協調性を遊びの中で養ってきた。

本園がまず何よりも、大切にしているのは家庭的雰囲気の中での保育である。そのためにも健康状態など、家庭との連絡を密に心掛けている。

【 平成27年度 利用児 】
延べ 814 人 開所日数 241 日 1日平均3.4 名

【 バス遠足 (H27.11.13) 】
筑紫野イオンモール

児童発達支援センター コアラ園

福祉型児童発達支援センターとして、3事業（①児童発達支援 ②放課後等デイサービス ③保育所等訪問支援）に取り組む。

① 児童発達支援

日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等の便宜を付与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日に、「あそび教室」というかたちで、グループ療育及び個別療育を実施した。内容として、基本的な生活習慣（食事・排泄・衣類着脱等）の獲得、感覚あそび、知育あそび、歌あそび、製作、母子あそび、運動あそび、プール、戸外あそびなど、個々の成長段階に合わせて提供した。遊びを通しての楽しさ、自己表現、作品完成への自信や達成感を味わうことを大切に、不快ではなく、快な状態を出来るだけ多く提供する事を心掛けながら進めていった。

また、母子関係の安定と充実に努め、そこから対人関係づくりへと発展出来るように配慮し、集団における社会性や協調性を伸ばすことも目的とした。

年間行事としては、

園内行事：親子レクリエーション（6/27 交流ホールにて 36名参加）

母親講座（9/16 研修室にて 26名参加）

クリスマス会

（12/15 年少未満児 22名参加・12/16 年長児 15名参加・12/17 年中児 9名参加）

卒園式（3/18 16名参加）

園外行事：お楽しみ活動として、電車に乗って久留米駅構内を見学するコースや、鳥類センター外出、コスモスパーク外出、ダイソーでの買い物などのコースを体験する（11/9～11/13）

ゆうかり学園盆踊り花火大会（7/23 田主丸植木市場にて 42名参加）

ゆうかり学園運動会（10/18 東部運動公園にて 23名参加）などにも参加した。

また、月1回の避難訓練（10月は消防署員立会い）を実施し、避難誘導等の訓練を園児、保護者と共に体験した。

その他、就学を迎える園児の保護者に対し、特別支援学校、特別支援学級の見学案内を行うとともに、並行通園をしている保育園、幼稚園への情報提供書作成や園内見学等の受け入れも行った。また、出産を迎える母親に対してのサポートとして、単独通園を受け入れた。地域へも出向き、久留米市、うきは市、朝倉市と連携をとりながら保育療育・子育てに関する相談業務を行い、地域支援、子育て

て支援を行った。

年間で73名の契約利用児を受け入れ、1日平均で約10～15名が利用する。

②放課後等デイサービス

生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日、15時～18時の時間帯で就学児を受け入れる。

田主丸特別支援学校の生徒6名（中学生4名、小学生2名）

小郡特別支援学校生徒1名

本郷小学校生徒1名（小学生1名）

久留米市大橋小学校生徒1名

計9名が年間で利用される。

③保育所等訪問支援

当該施設を訪問し、当該施設における障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援その他の便宜を供与することを目的とし、年間で3名の利用があった。

朝倉市生い立つ保育園 1名 3回訪問

朝倉市三奈木保育所 1名 3回訪問

久留米市山川小学校 1名 4回訪問

<学校見学案内>

	期 日	学 校 名	参加保護者数	参加園児
1	6/10(水)	小郡特別支援学校	4	3
2	6/17(水)	田主丸特別支援学校	4	3
3	6/24(水)	朝倉市金川小学校特支学級	1	1
4	7/ 1(水)	朝倉市蜷城小学校特支学級	2	1
5	7/ 2(木)	久留米市南薫小学校特支学級・通級	3	3
6	7/ 7(火)	久留米市高良内小学校特支学級	2	1
7	7/ 8(水)	うきは市山春小学校特支学級	1	1
8	7/ 8(水)	久留米市山本小学校特支学級	2	1
9	7/ 9(木)	朝倉市甘木小学校特支学級	1	1
10	7/10(金)	久留米特別支援学校	4	3
11	7/15(水)	田主丸特別支援学校	4	3
12	7/16(木)	朝倉市立石小学校特支学級	1	1
13	11/18(水)	うきは市御幸小学校特支学級	1	1

《心理検査》

発達検査	2
知能検査	22

上記の様に、必要に応じて発達検査並びに知能検査を行い、対象児の課題等を見
つけ出すと共に、今後の療育方針を決定する上での参考資料としていった。

また、就学を迎える年長児への情報提供として実施した。

《通園児診断名》

診 断 名	該 当 児
構音障害	47
発達性協調運動障害	43
言語発達遅滞	41
自閉症スペクトラム障害	33
精神運動発達遅滞	37
言語発達障害	4
運動発達遅滞	3
ダウン症候群	4
摂食機能障害	2
気管切開	1
痙攣重積型脳症後遺症	1
左痙性麻痺	1
注意欠如・多動症	1
滑脳症	1
知的障害	1
ピエール・ロバン症候群	1
染色体異常症	1
ビタミンD欠乏症	1
クレチン病	1
先天性心臓病	2
契約児 73 名（診断名複数該当あり）	

<出張関係>

出張名	出張者	期 日	会 場
韓国交流研修	三重野 弘美	H27. 4/16～4/19	韓国瑞林福祉院
幼児通園療育職員 講習会	松尾 美 穂子	H28. 1/25～1/29	心身障害児総合 医療療育センター 療育研修所（東京）
強度行動障害支援者 養成研修	堀内 禅	H28. 3/28～3/30	福岡市 エイドケアカレッジ 博多校

相談支援事業所 夢の紀

《概況》

法人内全施設との連携をはじめ、久留米市障害福祉課、市内の他相談支援事業所並びにサービス事業所との連携を中心に、朝倉市、うきは市等の相談対応も行いながら事業展開を行った。

医療型障害児施設をもつゆうかり学園の相談支援事業所の機能として、医療的な支援を必要とされる利用者様からの相談、他の相談支援事業所からの相談に、ゆうかり医療療育センターと先駆相談支援事業所との連携で応えていった。地域における相談支援事業所として、これらの要望は今後もさらに求められてくるものでもあり、積極的に応えていく姿勢が必要である。

在宅利用者様からの相談では、児童発達支援におけるサービス利用計画書の作成が特に多く、コアラ園通園を希望される保護者、担当市町村より作成の依頼があり、その都度、コアラ園、ゆうかり医療療育センターとの連携で対応をした。また、医療的ケアの必要な超重症児の聖マリア病院からの退院支援を行い、在宅支援のコーディネートを行った。

入所利用者様のモニタリングに関しては、ゆうかり医療療育センター、千歳療護園、第二千歳療護園、耳納学園のサービス管理責任者および各所属長の協力を得ながら実施している。

今後も、法人内の相談支援事業所としての役割と共に、地域における相談支援事業所として、各市町村障害福祉課やサービス事業所、地域における各協議会等との連携を取りながら、法人施設利用者をはじめ地域生活における障がい児者への相談対応、並びにサービス等利用計画の作成・相談対応を行っていく。

【相談件数】

基本相談				地域事業部相談支援に記載		
サービス等利用計画作成件数				218 件		
障害種別（複数選択）						
	身体	知的	精神	重心	難病	児童 (重心含む)
区分無	0	0	0	0	0	35
区分1	0	0	0	0		
区分2	5	1	1	0		
区分3	20	2	0	0		
区分4	7	0	0	0		
区分5	26	0	0	0		
区分6	116	0	0	68		

<今年度参加会議>

- ・久留米市相談支援事業所連絡会<くるめ相談ネット> (月1回)
- ・久留米市事業所ネットワーク連絡会 2月25日 久留米市教育センター
- ・久留米介護福祉サービス事業者連絡協議会研修～重症心身障害児・者とともに生きる 10月16日 サンライフ久留米
- 3月19日 久留米市役所
- ・久留米市医療ケア短期入所等支援体制整備事業
- 12月11日 久留米市役所
- 3月24日 久留米市役所
- ・田主丸特別支援学校相談会(年3回) 7月9日、12月3日、3月3日
- ・第34回九州障害児者施設研究大会 9月10,11日 熊本市
- ・福岡県障害者虐待防止・権利擁護研修 10月14,21日 クローバープラザ
- ・八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会
- 10月19日 筑後市総合福祉センター
- ・九州地区障がい者相談支援事業合同研修会
- 11月5～6日 大分県大分市オアシスタワーホテル
- ・相談支援従事者現任研修 1月15日 福岡市市民福祉プラザ
- 2月4・5日 福岡市立心身障がい福祉センター
- ・福岡県相談支援従事者専門別研修：重症心身障害児者支援
- 2月9日 福岡県庁
- 2月12日 吉塚合同庁舎
- ・小児等在宅医療推進事業 ～小児訪問看護研修
- 10月9日 九州大学医学部
- ～医療と教育実践セミナー
- 1月30日 九州大学医学部
- ・社会福祉施設役職員研修 3月18日 クローバープラザ
- ・福岡県南部在宅重症児支援会議 6月8日,11月30日 ゆうかり学園
- ・精神保健福祉関係機関連携調整会議 3月25日 え～るピア久留米
- ・障害者相談支援ネットワークふくおか キックオフ研修会
- 1月11日 黒崎ひびしんホール
- ・うきは市地域障害者協議会 11月18日,1月27日,3月23日

耳 納 学 園

《概況》

今年度の社会福祉を取り巻く環境においては、ここ数年社会福祉法人の制度改革が進められており、経営組織のガバナンスの強化や事業運営の透明性の向上、地域における公益的な取り組みなどが求められている。また、障害者総合支援法「施行三年後の見直し」など今後も急激な変化が予想され、厳しい状況である。

作業面においては、ご購入の方に好評であった食品加工部門の「焼肉のたれ」は昨年と同等の売り上げを確保している。また、毎年恒例の「ゆめタウン久留米展示即売会」を法人職員の協力を得て開催し、昨年の売上を超えるという目標を達成できた。

生活面では、昨年展示会期間中にノロウイルス感染が発生するアクシデントがあったが、今年は職員より感染症予防・健康維持の声掛けや利用者様におかれても自ら感染を予防するという意識が強く、手洗いうがいなど積極的に取り組まれたため今回は展示会期間中の発生はなかった。日常生活場面では、利用者様からの要望などは、苦情解決担当職員や自治会と協力しながら迅速な対応を行い、問題解決に向け取り組んだ。

総務部

1) 本年度の各事業別利用状況

《施設入所支援》定員 34 名

年間延べ利用者数 11,529 名、充足率 92.6%、1 日平均利用者数 31.5 名

《就労継続支援 B 型》定員 40 名（通所 6 名含む）

年間作業参加実績延べ利用者数 7,143 名、定員から見た充足率 74.7%、

1 日平均作業参加実績利用者数 29.9 名

2) 本年度の地域別入退園状況は、別表（1）の通りである。

別表（1） 本年度の地域別入退園状況

入園状況 地域別	前年度末		入 園		退 園		本年度末	
	男	女	男	女	男	女	男	女
福岡市		1						1
久留米市	5	3					5	3
柳川市		4						4
朝倉市	2	1					2	1
大川市	1	1					1	1
小郡市		1						1
うきは市	2	1			1		1	1
大宰府市		1						1
新宮町		1						1
八女市	1	1					1	1
みやま市		1						1
上毛町	1						1	
東峰村	1						1	
唐津市	1						1	
武雄市	1						1	
佐賀白石町		1						1
計	15	17			1		14	17

厚生労働部

【就労支援課】

本年度は、陶芸部門に於いて熟練スタッフ不在という事態に直面し、利用者様への職業指導や生産性の低下など各工程での試行錯誤やそれに伴う様々な問題に向き合いながら手造りのオリジナル製品作り等で出来る限りの対応を行った。今後は職員の陶芸技術の向上や作業場に於ける設備と石膏型の老朽化を補う対応が必要である。

工芸部門では、人気商品のふくろう飾りに磨きをかけ、利用者様のアイデアによる新規のオリジナルの製品も取り揃え充実した商品のラインナップを実現した。

食品加工部門に於いては、今年度も焼肉のたれの加工生産に特化し、前年度と変わらない位の販売実績を上げる事ができた。

販売に関しては、出向販売、委託販売、各種イベント販売等の他に、職員の方々へ向けた製品紹介、販売の場として6月に園内販売会も実施した。また今年度から他施設の製品（パン・クッキー）を購入して職員を対象とした受託販売を月2回ペースで実施した。

大きなイベントとしては、1月に「ゆめタウン久留米展示即売会」を法人職員の協力により今年度も開催する事ができた。一年の集大成とも云える即売会の売り上げが前回の実績を若干ではあるが上回った事で、一応の達成感を得られた。また県主催による「まごころ製品大規模販売会」（福岡三越）へ出店したが、大雪の影響等もあり前年度程の実績を上げる事はできなかった。

厳しい状況ではあるが、今後も利用者様一人ひとりに適した作業訓練の実施、安全に十分配慮し、より良い製品作りを通して利用者様の自己表現、社会参加を図っていきたい。

1) 本年度の売上及び工賃支給状況は、別表（2）の通りである。

月	売上金額	工賃支給額
4月	243,070	301,390
5月	447,898	301,044
6月	389,972	298,765
7月	475,009	298,721
8月	216,913	297,510
9月	411,823	298,305
10月	420,229	298,220
11月	1,296,956	298,024
12月	493,117	299,862
1月	1,809,129	456,060
2月	300,191	296,981
3月	901,921	300,690
計	7,406,228	3,745,572

※ 本年度の工賃支給率は、50%

【厚生課】

今年度の行事関係では、学園の行事等へ参加される保護者様が減ってきているため、保護者会会長の依頼もあり保護者様をご案内しての一日レクリエーションを夏季自由帰省日の8月13日に実施した。

保護者様9家族11名の方が参加され、昼食には耳納学園特製の「焼肉のたれ」を使ってバーベキューを行い、保護者様も積極的に焼き上がった肉類や野菜類を利用者様のテーブルまで運んでいただいた。

午後からは、利用者様、保護者様、職員とで、「すいか割りゲーム」や「枕渡しゲーム」などを行い、利用者様と保護者様の真剣な表情を見る事ができ、笑いのたえない楽しい一日を過ごすことができた。

生活面においては、特定の利用者様より数回の要望が上がってきたため苦情解決担当職員がその都度対応して、利用者様と面談を持ちながら解決していった。自治会においても、自治会長が要望者の窓口となり利用者様へのアドバイスなどを行ってもらったり、月1回の自治会では「団体生活をしているので、相手を思いやる気持ちやお互いに協力して行く事」などを問題提起して、生活場面での改善点を話し合ったりしている。次年度も、利用者様からの要望や相談事には、職員がよく話を聞いて素早い対応をおこない問題解決に向けて取り組んで行きたい。

1) 本年度の在園期間別人員数及び平均在園期間は、別表(3)の通りである。

別表(3) 入園期間別人員数及び平均入所期間

区分	1年未満	1~4年	5~9年	10~14年	15~19年	20年以上	計	平均
男	0	2	0	2	2	8	14	25年7ヵ月
女	0	3	1	3	1	9	17	22年11ヵ月
計	0	6	1	5	3	17	32	24年3ヵ月

2) 本年度の年齢区分別人員数及び平均年齢は、別表(4)の通りである。

別表(4) 年齢区分別人員数及び平均年齢

区分	20歳未満	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	計	平均
男	0	0	2	4	8	14	54歳1ヵ月
女	0	1	1	5	10	17	53歳1ヵ月
計	0	1	3	9	18	31	53歳7ヵ月

3) 本年度の主な実施事項は、別表(5)の通りである。

別表(5) 主な実施事項

月	日	行 事	月	日	行 事
4	9	開園記念行事	10	18	ゆうかり学園大運動会
4	26	第26回福岡県身体障害者体育大会(福岡市)	10	29	体験外出(ショッピング)
5	19	体験外出(ショッピング)	11	17	体験外出(ショッピング)
5	26	体験外出(施設見学)	11	26	夕食会
6	25	夕食会	12	24	もちつき・忘年会
7	23	ゆうかり盆踊り大会	1	21	1日レクリエーション(喫茶店)
8	13	1日レクリエーション	2	18	1日レクリエーション(ラーメンを食べよう)
9	24	(保護者様参加)	3	24	夕食会

4) 本年度実習生の受け入れ

介護等体験実習	(久留米工業大学)	1名
介護等体験実習	(福岡教育大学)	4名
現場実習体験	(久留米特別支援学校)	1名
産業現場等実習	(田主丸特別支援学校)	1名
保育実習 I	(九州大谷短期大学)	1名

【看護課】

今年度は1名、胆嚢結石の痙攣発作で、入・退院を繰り返した。ご家族の希望も受けて手術は行わず、絶食・輸液管理などにて軽快している。またC型肝炎で注射や内服治療を行った利用者様が新規薬剤のハーボニー治療を開始しました。ウイルスに直接作用し副作用もなく現在(8週)ウイルスも陰性化し順調に経過している。

感染症では、インフルエンザおよび感染性胃腸炎ともに発症はなかった。今後も感染症予防に努め利用者様の健康管理の支援を行っていきたい。

1) 月別受診人員数は別表(6)の通りである。

別表(6) 月別受診人員

月別 疾病別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定期薬内服	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
呼吸器疾患	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
内科疾患	28	28	29	28	28	28	29	28	28	30	28	28	340
外傷性疾患	1	1	1	1	1	1	2	3	3	3	2	3	22
外科疾患	6	6	6	6	6	6	6	7	6	6	6	6	73
内科疾患	1	1	2	3	2	2	2	3	1	1	2	1	21
皮膚疾患	6	6	5	6	8	8	6	8	7	11	10	6	87
歯科	9	13	40	12	15	11	13	12	15	11	13	14	178
耳鼻科	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
眼科	6	6	7	8	6	8	6	6	6	7	6	6	78
婦人科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
精神科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
入院	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
計	64	66	95	70	72	69	69	72	71	74	72	69	863

【27年度研修等出張記録】

期日（期間）	研修会名称	出張先	参加数
H27 5/13	社会福祉法人役員施設役職者研修会	久留米市	2
5/12, 14, 21, 27	県社協 新任職員研修	春日市	2
6/3～5	第6回日本セルフセンター研究大会	東京都	2
6/4, 11. 18	県社協 職場内指導者養成研修	春日市	1
6/11, 12	第1回 施設長会・職員研修会	糸島市	1
6/22	県セルフセンター第1回施設長会	春日市	1
7/7	県社協 労務管理研修	春日市	1
7/15, 22, 28, 29	県社協 会計研修初任者コース	春日市	2
8/6, 24	県社協 ビジネス文章研修	春日市	2
8/27, 28	キャリアパス対応生涯研修 管理職コース	春日市	1
8/28	「まごころ製品」販売会説明会	福岡市	1
9/10, 11	九州身体障害者施設研究大会	熊本市	2
9/14, 15	県相談支援従事者初任者研修	大野城市	1
9/24	県セルフセンター施設長・職員研修会	春日市	2
10/20	「まごころ製品」販売会打合せ	福岡市	1
10/23	福岡県社会福祉大会	春日市	1
10/26, 27	全国社会就労センター課題別専門研修	東京都	1
10/29・30 11/12・13	キャリアパス対応生涯研修 チームリーダーコース	春日市	2
11/5～6	九州授産施設（セルフ）研究大会	佐賀市	4
11/24・25	県社会就労センター施設長・職員研修会	北九州市	3
12/11	県サービス管理責任者研修	春日市	1
12/15	「まごころ製品」販売会出店説明会	福岡市	2
12/16	県社協 広報担当者研修	春日市	1
H28 1/22	久留米市障害者支援施設協 総会	久留米市	2
1/26	県社福協社会福祉法人経営者セミナー	福岡市	1
2/16, 23	県社協 処遇記録研修（障害者分野）	春日市	2
3/17・18	県サービス管理責任者研修（介護分野）	春日市	1
3/28, 29	県サービス管理責任者研修（就労分野）	春日市	1

千歳療護園

《概況》

平成25年4月より施行された「障害者総合支援法」の3年後の見直しとして、常時介護を要する障害者等に対する支援、障害者等の移動の支援、障害者の意思決定支援の在り方、手話通訳等を行う者の派遣、その他の障害のため意思疎通を図る事に支障がある障害者に対する支援などが平成27年4月より本格的に検討が開始されている。今年の4月からは、「障害を理由とする差別の解消の促進に関する法律」(障害者差別解消法)が施行される。

この様に社会福祉の情勢も大きく変わりつつある中で職員一人ひとりが自覚を持ち、しっかりと流れに沿って様々な情報収集をおこなって行かなければならない。

今年度における自然災害に於いては8月25日午前7時ごろ、台風15号が久留米市にもっとも接近し大雨と強風により大きな被害をもたらした。当園でも千歳と第二千歳の間にある側溝の水はけが間に合わず、西側の女性棟の殆どが5cmほど浸水した。2時間ほどで水も引いたが後片付けに時間を要した。その時の強風で屋上冷暖房機の室外機が破損し業者による修理となった。また、今年1月25日の大雪では、ゆうかり学園で水道管が凍結するなどの被害があった。この為、予期せぬ自然災害にも対応できるよう今後も検討していく必要がある。

法人全体の行事として久留米東部運動公園の完成により3年ぶりに晴天の中「ゆうかり学園大運動会」が盛大に行われ参加された利用者一人ひとりの楽しそうにしている笑顔が見られた。園内における日中活動では、5月より曜日ごとに違う活動を取り入れ、利用者様にとって楽しみとなるような活動を今後も心掛け取り組んで行きたい。

介護面に於いては、出来るだけ生活場面での同性介助を目指し、12月よりインカムを導入して、支援を行って来たが、スピーディーな情報伝達、利用者を待たせない介助、緊急時の対応など職員間の連携やサービスの向上に繋がった。

入浴の場面でも、今まで床にマットを敷き洗身などの介助を行っていたが、新たにシャワーチェア、シャワーストレッチェアの購入により利用者の目線に合わせた入浴の介助を行う事ができ利用者のサービスの向上や職員の負担軽減に繋がった。また、社会的な問題となっている虐待等については、心障協が「虐待はしない、させない、許さない」をスローガンに掲げ、虐待防止への意識を全国に発信している。当園に於いても、職員は常に意識し職員間で気付かない間違いをお互いに指摘し合う等の信頼関係を築き、利用者との関わりの中で快適な生活、安心できる生活を目標に一人ひとりに笑顔を提供できるよう職員一同支援に努めて行きたい。

総務部

<千歳療護園 経理・庶務課>

本年度の生活介護（日中支援）の利用人員は、延べ 11,500 名、定員の 88.4%で、入所支援（夜間）の利用人員は延べ 14,803 名で 102.7%の利用率であった。

内訳は 6 名の利用者様が延べ 307 日間の入院の他、外泊日数は延べ 210 日間となっており入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 14,286 名で 99.2%の充足率であった。

利用者様が病院へ入院されると退院までの期間が長期化する傾向にあるが、平成 28 年 3 月 31 日現在では、1 名の利用者様が継続入院となっている。

短期入所の利用は年間延べ 181 名で、日中一時支援の利用はなかった。

本年度の利用者の地域別入退所者状況は別表（1）参照。

生活部

(1) 生活援助課

(パートナー係)

ケアプランのニーズを中心に利用者様本位のサービス提供を基本において、月 1 回の自治会役員の方との話し合い（暖和会）や月 1 回の職員との懇談会、利用者様の話し合いの場（ちとせ会）を通して、利用者様の自主性・選択性・対等性を尊重しながら働きかけを行ってきた。

利用者様のニーズとして最も多い外出行事に関しては、昨年度に引き続き、その月の誕生者にゆめタウン久留米や吉井ユメマートへの買物を中心とした外出を毎月計画し、35 名の方が参加された。その他に希望外出では、コンサート、障害者スポーツ大会、ナイター観戦、ラグビー観戦等に行っている。今年度も外部の外出サービス(ホットオアシス)を利用して、買物や外食を楽しんでいる利用者様も増えてきており、外部外出サービスを利用する際の業者との連絡、日時の調整、料金の支払いなどは職員が代行した。

誕生月外出は半日の外出なので十分なショッピングを楽しんでいただくには、物足りなさを感じられた方もおられた。施設からの外出時間が制限される理由としては、入浴にかかる人員と時間が影響していると思われる。次年度の外出行事に関しては、もっと外出、外食をしたいとの要望も出てきているので、楽しみを実現できる生活を目標に、積極的な計画・取り組みを検討していかなければならない。

園内の活動に関しても週6日、室内の日中活動を充実させることを目標に取り組んできた。活動の内容としてはカラオケ活動や算数などの勉強会、朗読会を実行しており、その日の活動担当職員を中心に多くの利用者様に参加していただいた。

また、食堂に設置しているプロジェクターと室内音響を利用して、ダイナミックな音量で楽しんでいただけるようなDVD視聴を行い、居室以外での余暇時間を楽しく過ごしていただけるよう働きかけ、園内での生活をより充実したものにする取り組みを行った。このことで、一部の利用者様については、居室での生活時間から食堂で過ごす時間が長くなり、他利用者様との会話が増えた方もおり、少なからず活動により生活空間が変わってきている方も見られている。

来年度は昼食を兼ねた買い物外出の検討、そして一泊旅行の希望もあり、旅行については数年で立案したく考えている。

☆ 週生活表は別表(2)、年間実施行事は別表(3)の通りである。

(サポート係)

平成27年度の千歳療護園は、生活介護50名(支援センターを含む)、施設入所40名(実人数40名)短期入所2名(実人数1名)。死亡退園(女性1名)、入園(0名)で現在は構成されている。

今年度は、感染症予防に手洗いや換気、掃除などの徹底に努め、発熱・嘔吐等があると、医務との連携により素早く対応し、万一に備え消毒なども早めに行い、インフルエンザやノロウイルス等の感染症に罹患される利用者様はいなかった。

平成26年3月全国身体障害者施設協議会より発行された「個別支援の実現に向けたケアガイドライン」の研修に、多くの職員が参加することができた。研修で学んだことを元に、「同性介助」については、入浴場面では早くから出来ていたが、排泄関係についてはその状況に伴い異性介助の場面もあり、昨年12月よりインカム(トランシーバー)の導入にて、大きな声で介助を依頼したり、利用者様を待たせる事も少なくなり、以前と比較し同性の介助へと繋がって来ている。また、情報を共有する、知りたいことが直ぐ判るなど、仕事の効率も上がって来ている。

ハード面では、入浴設備として今までは床上での更衣や洗身、職員2人で抱え湯船に入れるなど人手による介助を行っていたが、シャワーチェアとシャワーストレッチャーを導入する事により、利用者様にとっては安心できる座位で洗身ができ、また、ストレッチャー利用の方も洗身・浴槽・拭き上げも職員と同じ目線となり、介護での負担軽減にも繋がっている。

排泄関係についても、安全バーのないトイレを使用中、転倒され骨折する事故があり、二度と繰り返さないよう原因・対策などを検討し、安全バーを全ての洋式ト

イレに設置した。

利用者様の身体面での重度化や加齢が進む中、身体の変化に常に意識し緊張感を持ち、質の高いサービスを提供する事が必要だと感じている。

ソフト面では、今年老人施設の職員による虐待事件など権利擁護に関しマスコミを騒がせていたが、心配された御家族より確認の電話を受け、これをきっかけに業務の中で関わっている職員の何気ない言葉や行動が利用者様にとってどんな影響を与えるのか職員全体で勉強会をした。利用者様に接する心構えは勿論、職員同士がお互いを注意し合えるような環境をつくり、また、先輩は手本となるよう今一度気を引き締め行動していくことを確認した。

日中活動では、現在行っている活動の工夫や季節の行事を取り入れ、また“外出したい”という希望をなるべく叶えるように、少人数による外出(花見)なども行なっている。

昨年8月には、移転1周年記念式典が大勢の御家族の参加により、盛会に終了する事ができた。

個別支援計画については、サービス管理責任者が中心となり利用者様の意向を聴きながら計画書を作成している。利用者様に対し安全・安心した生活を支援し、緊張感を持って質の高いサービスを提供し、スキルアップ・ケアの質の向上に努めていきたい。

(2) 訓練援助課

千歳療護園では、男性21名、女性19名、計40名の利用者様に対し、理学療法士1名・機能訓練員1名で実施、利用者様一人あたりの訓練回数は身体状況によって週1~2回実施し、個別にかかわる事でより充実した訓練内容となるよう援助を行った。

訓練内容については、利用者様の状態にあわせ、関節可動域の維持、体力・筋力の維持、残存機能維持、痛みの軽減を目的とした内容を実施している。実施内容については下記の通りである。高齢化に伴い、体力・筋力の低下や、身体の痛みを訴える利用者様が多くなり、体力・筋力低下の著しい利用者様には、訓練時間以外に自主訓練を行い、体力の維持に努め、身体の痛みを訴える利用者様には、マッサージやホットパックを施行し、痛みの軽減に努めた。また、スキルスクリーンやスキルギャラリー等の作品制作を行うことで手指巧緻性の維持を図りながら、作品をつくる事の楽しさや、完成の喜びを味わう事ができるように、訓練内

容に組み入れている。

訓練援助を行いながら、多くのコミュニケーションをはかり、悩みや思いを傾聴して、ストレスの解消や、精神的にも落ち着く事ができるよう援助を行った。

車椅子管理、補装具の交付・修理申請手続きも訓練援助課にて行っており、平成 27 年度では車椅子交付申請 1 件、車椅子修理申請 12 件、装具修理申請 1 件、福祉用品の購入は 8 件であった。

(訓練内容)

- 関節可動域維持運動
- 体力・筋力維持運動
(腕立て、腹筋、背筋、立ちかがみ、四つ這い、寝返り、バンド等)
- 姿勢保持訓練(立位、座位バランス等)
- 日常生活動作訓練(車椅子移動、移乗動作等)
- 歩行訓練(杖歩行、歩行器歩行、平行棒歩行等)
- 巧緻動作訓練(紐通し、パズル、はめ絵等)
- 趣味活動(スキルスクリーン制作、ゲーム、野球等)
- リラクゼーション(上田法、マッサージ、ホットパック、プロンキーパー等)
- 電動車椅子操作練習

(3) 生活部相談援助課

《概況》

平成 27 年度は、施設の移転引越し後、1 年半が経過した。相談援助課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活援助業務(食事、入浴、排泄、移動等)で関わりを深めながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様一人ひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努め知能・発達検査も行った。

そして、情緒の安定を目的として行ってきた読み聞かせの活動を、千歳、第二千歳の相談室の二カ所で実施し、前頭前野の活性化を図るために、カードのインプット等にも取り組んだ。

また、移転地は散歩をするには絶好の環境であるため、気分転換・ストレス解消等を目的に敷地内や隣接の運動公園で活動を行った。

利用者様も個室生活に慣れてきたと思われるが、孤独感を感じさせないように各居室に向いた折に、これまで以上にコミュニケーションを密にとるように心掛ける配慮も継続した。

(援助内容)

- ① 面談活動 (カタルシス)
- ② 散歩療法 (発散、リフレッシュ)
- ③ 表現療法 (遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係)
- ④ ポジショニング (リラクゼーション、慢性痛の軽減、QOLの拡大等)
- ⑤ 前頭前野活性化法 (読み聞かせ、公文カード、ドリル等)
- ⑥ 介護全般
- ⑦ メンタルヘルス (ドライブ外出、カウンセリング)
- ⑧ 環境整備、その他

(心理検査)

発達検査 (0回) 知能検査 (3回) 性格検査 (0回)

(4) 生活部看護課

障害者支援施設に於て利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、園内で医療行為を必要とする利用者様が徐々に増加する傾向にあり、今後も協力病院との連携を図り、利用者様の健康管理・衛生管理を行いサービス向上に努めている。

《平成 27 年度》

① 委託入院	田主丸中央病院	8 件
	聖マリア病院	1 件
② 医療ケア	膀胱瘻	1 名
	皮下注射	1 名

③ インフルエンザ予防接種

38名

④千歳療護園 年齢別入所者数

平成 28 年 3 月 31 日現在

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	計
利用者	1	0	9	18	3	8	39
(%)	2	0	23	46	8	21	100

⑤千歳療護園 病類別入所者数

平成 28 年 3 月 31 日現在

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	30	脳脊髄膜炎後遺症	1
脳出血後遺症	2	脳挫傷	1
頭部外傷後遺症	1	クモ膜下出血後遺症	1
精神遅滞（重度）	1	脳血管障害	1
進行性ミオクローヌステんかん	1		

別表 (1)

地域別入退園者状況表

平成 27 度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町	1			1		1	
	上 陽 町							
	大 木 町							
	大 和 町							
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	蒨 田 町							
	筑 前 町							
	福 智 町							
	小 計	1			1		1	
市 福 祉 関 係	福 岡 市	2			2	1	1	
	北 九 州 市	3			3	2	1	
	大 牟 田 市	2			2	2		
	久 留 米 市	6			6	4	2	
	直 方 市							
	飯 塚 市							
	田 川 市	2			2		2	
	柳 川 市	5			5	2	3	
	宗 像 市	1			1	1		
	八 女 市	2			2	1	1	
	筑 後 市							
	大 川 市	4			4	1	3	
	小 郡 市							
	筑 紫 野 市	1			1	1		
	春 日 市	1			1		1	
	大 野 城 市							
	糸 島 市	1			1	1		
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
	中 間 市							
	古 賀 市							
	う き は 市	4			4	2	2	
朝 倉 市	3			3	3			
み や ま 市	1			1	1			
福 津 市								
	小 計	38		0	38	22	16	
	鳥 栖 市	1		1				死亡退園
	日 田 市	1			1		1	
	佐 賀 市							
	小 計	2	0	1	1	0	1	
合 計		41	0	1	40	22	18	

別表 (2)

週 生 活 表

千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替・洗面・移動 朝食						
9:00	移動・排泄・歯磨き (朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会
10:30	訓	訓	訓	訓	訓	訓	
11:00	練	練	練	練	練	練	
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性) 定期診察	入浴 (女性) 療育会議 外出	入浴 (男性) 外出 ちとせ会 職員懇談会	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	訓	訓	訓	訓	訓	訓	
15:00	練	練	練	練	練	練	
16:00			暖和会				
16:20	※ 入浴は、千歳と第二千歳を1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17:00	夕食						
18:00	歯磨き(自立者一部)、後片付け、排泄						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き(介助者) 歯磨き(自立者)						
21:00	消 灯						
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月 曜 日 コミュニケーション会 ○ 火 曜 日 利用者買物(隔週)、定期診察(男女月1回)、勉強会活動 ○ 水 曜 日 誕生者外出、療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義) 暖話会(第2週)、DVD視聴活動、レクリエーション活動(月1回) ○ 木 曜 日 誕生者外出、ちとせ会・職員懇談会(第2週) カラオケ活動 ○ 金 曜 日 朗読会活動 ○ 土 曜 日 利用者と園長懇談会(最終土曜日)、生け花(第3週)、塗り絵・工作活動 ○ 月 行 事 体重測定(千歳：第一日曜 第二千歳：第二日曜日)、出張散髪(最終月曜日) ○ 隔 月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議) 						

別表 (3)

年間実施行事記録表

平成 27 年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	23	開園記念行事	10	1	ネイルボランティア (29 日)
	26	★身体障害者スポーツ大会		6	☆誕生者外出 (12 日, 22 日)
	28	天理教心のきしん (除草作業)		18	ゆうかり学園運動会
	30	☆2015 サックスラグビーワールドユース交流大会 ☆誕生者外出 (8 日, 9 日 AM, PM)		24	生け花
5	16	生け花	11	12	☆誕生者外出 (13 日, 16 日)
	19	☆誕生者外出		21	生け花
	22	☆誕生者外出		25	☆誕生者外出 (26 日)
		26		ネイルボランティア	
6	12	☆誕生者外出 (AM、PM)	12	10	浮羽消防署指導避難訓練・餅つき慰問
	18	☆誕生者外出		15	☆誕生者外出 (25 日)
	19	☆ナイター観戦		19	生け花
	20	生け花		22	ネイルボランティア
		24		忘年会	
7	4	★サザンオールスターズ コンサート	1	9	生け花
	18	生け花		13	☆誕生者外出
	23	盆踊り花火大会		14	☆誕生者外出
	28	ネイルボランティア		21	ネイルボランティア
	30	☆誕生者外出 (31 日)		28	☆誕生者外出
8		☆誕生者外出 (12 日, 13 日)	2	20	生け花
	25	ネイルボランティア		24	☆誕生者外出
	26	生け花		25	☆誕生者外出
	27	ちとせ祭		25	ネイルボランティア
	28	☆大昌園焼肉招待		25	防災教育
9	10	避難訓練	3	10	☆誕生者外出
	17	☆誕生者外出		18	本佛寺慰問
	19	生け花		22	ネイルボランティア
	23	☆誕生者外出		23	☆誕生者外出 (24 日)
				26	生け花

(参) 実習生受け入れ状況

(九州大谷短期大学)

実習期間	人数
9 月 7 日～10 月 15 日	2
11 月 9 日～11 月 26 日	2

(平岡介護福祉)

実習期間	人数
11 月 25 日～12 月 15 日	2

* 介護等体験実習

大 学 名	実習期間	人数
九州産業大学	5 日間	5
久留米工業大学	5 日間	5
星槎大学	5 日間	5
福岡教育大学	5 日間	5

◎ 延べ人数 124 名

別表(4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	2	2	4
	一部介助	11	10	21
	全介助	8	7	15
起 坐	自 立	5	4	9
	一部介助	5	9	14
	全介助	11	6	17
立ち上がり	自 立	2	1	3
	一部介助	4	6	10
	全介助	15	12	27
排 泄	自 立	3	1	4
	一部介助	2	7	9
	全介助	16	11	27
更 衣	自 立	4	1	5
	一部介助	1	3	4
	全介助	16	15	31
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	3	0	3
	全介助	18	19	37
歩 行	自 立	1	0	1
	一部介助	0	1	1
	全介助	20	18	38
寝返り	自 立	8	8	16
	一部介助	1	3	4
	全介助	12	8	20
車椅子使用	自 立	4	3	7
	一部介助	4	6	10
	全介助	12	9	21

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	2	1	3
		2回	5	5	10
		3回	6	8	14
		4回	6	3	10
		計	20	17	37
	服 薬	1回	13	9	22
		2回	5	8	13
		3回	0	0	0
		計	18	17	35
	体位変換	1回	3	2	5
		2回	1	0	1
		4回	1	0	1
		8回	0	0	0
計		5	2	7	
おむつ使用	昼・夜	4	4	8	
	夜間のみ	3	6	9	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗身の一部が出来る事。

障害者支援センター ちとせ

「障害者支援センターちとせ」は、障害者支援施設千歳療護園の通所による日中活動（生活介護）として事業を実施した。現在、久留米市、うきは市、朝倉市、朝倉郡の一部を事業実施地域としてサービスを提供している。

平成28年3月31日現在の、支援センター利用契約者様は14名で、内訳は下記の通りである。

久留米市	8名
うきは市	5名
朝倉市	1名

今年度は、延べ 1,269名の方が利用され、1日平均5.2名の利用があった。内訳は下記の通りである。

久留米市	728名
うきは市	382名
朝倉市	159名

延べ利用人数は前年と比較すると344名の減となった。市町村別では減数となったのは久留米市、うきは市の利用者様で、それぞれ延べ189名、158名の減であった。また、年間を通して長期の入院・感染症による自宅療養が多い月もあり利用人数が少ない期間があった、現在も3名の方が入院中である。

利用者様の状況として、本年度初めは契約者様が14名であったが、年度途中で疾病などで長期入院される利用者様や感染性の疾病による自宅療養される利用所様もおられ、利用減につながった。なお、新規の契約者様は1名（久留米市）であった。現在21歳から77歳（男性7名・女性7名）の方が利用されており、平均年齢50.3歳（男性56.2歳・女性44.4歳）となっている。又、14名中10名の方（全体の71%）が車椅子を使用されている。

※喀痰吸引・経管栄養は基本研修・実地研修を終了した介護職員が、「特定の方」（2名）に対し利用者様（及びご家族様）の意向や必要に応じて看護職員と連携し実施している。実施状況は以下のとおりである。

- ・喀痰吸引は1名の利用者様に対し、それぞれ1回から2回実施。
- ☆障害支援区分、主たる起因疾患別年齢表は、別表(A)の通りである。
- ☆月別・市別利用者数表は、別表(B)の通りである。

活動においては、制作・創作活動（掲示物制作や季節の飾り物、習字など）や各種

行事（花見、端午の節句、七夕、秋のドライブ外出、クリスマス、初詣、節分、桃の節句など）、個別的機能訓練、なぞなぞクイズやトランプなどを実施した。

毎年恒例となっている年賀貼り絵の制作は利用者様全員でステンドグラス作りを行った。完成した作品は、1月の耳納学園の展示即売会会場に展示、その後は支援センターの格子戸に展示し、利用者様にとって大きな励みとなった。

本年は、屋外や他施設との交流・散策が容易に行えること、また隣接する運動公園にも足を運ぶことができ利用者様の活動範囲が広がった。特に温泉での入浴時間を楽しみにされていて、これまで入浴をされていなかった利用者様も入浴をされるようになった。

外出行事（ドライブ外出や買い物、初詣、花見など）や法人の各行事（コンサート、夏祭り・レクリエーション大会など）にも積極的に参加頂いた。

本年度よりサービス等利用計画が開始されたが、うまく機能できていない面もあり次年度も引き続き利用者様のニーズをくみ取り計画に沿った行事や活動を模索し、利用者様のQOLの向上を目指していきたい。また、利用者様の利用人数の確保が大きな課題となっている。それにともない各事業所、役所、支援学校などへの関係づくり、利用者様が増えた場合の送迎の対応、車両の確保、医療面では、喀痰吸引や胃瘻などに対する問い合わせが多く対応・対策が必要である。

日中活動の支援内容

○身体介護 食事、入浴、排泄、移動、移乗介助

○創作的活動、文化的活動、社会適応訓練（個別活動・グループ活動）

<手工芸>

- 折り紙細工 花 小物 輪飾り
- 小物づくり さげもん 紙皿 編み物 キーホルダー
- 造形 紙、布、ボタン、テープや毛糸、木の実など様々な材料を利用
- スキルギャラリー 、ジグソーパズルなど

<習字、読み、書き> 毛筆、読み書き練習、模写 作詞 詩

<制作> 貼り絵 自由画、ぬり絵、折り紙制作など

<外出> 見学、買い物、ドライブなど

○機能訓練

日常生活動作訓練、四肢他動・抵抗運動、器具運動、積み木、紐通しなど

○スポーツ、趣味娯楽活動

ポケネット、輪投げ、ナンバーストライク、 玉入れ、カラオケ、トランプ、オセロ、ジェンガ、おはじき、 合唱・楽器演奏、DVD鑑賞、音楽鑑賞など

○更生相談

利用者様の要望や必要に応じて医療、福祉、介護等の相談を行っている。

別表（A）平成 27 年度

障害程度区分表

障害者支援センター ちとせ

年齢 \ 区分	2	3	4	5	6	計
20 歳未満						
20～29			1		2	3
30～39				1		1
40～49			2		1	3
50～59						
60～64		1	1	1		3
65 歳以上		1	2		1	4
計		2	6	2	4	14

主たる病類年齢表

年齢 \ 病名	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	計
	脳性麻痺	脳血管障害	脊髄損傷	頭部外傷	特定疾病	特定疾患	リウマチ	進行性筋萎縮症	その他	
20 歳未満										
20～39	1								4	5
40～64		1	1						4	6
65 歳以上	1	1			1					3
計	2	2	1		1				8	14

別表 (B) 平成 27 年度 月別・市別利用者数表

障害者支援センター ちとせ

月	利用 日数	利用 者数	1 日 平均
4	21	118	5.6
5	18	111	6.1
6	22	135	6.1
7	22	106	4.8
8	19	84	4.4
9	19	85	4.4
10	21	104	4.9
11	20	92	4.6
12	19	105	5.5
1	19	103	5.4
2	20	105	5.2
3	22	121	5.5
計	242	1,269	5.2

月	久留米市			うきは市			朝倉市		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
4	30	35	65	16	21	37	0	16	16
5	27	34	61	14	23	37	0	13	13
6	35	37	72	17	28	45	0	18	18
7	21	37	58	22	11	33	0	15	15
8	20	29	49	15	7	22	0	13	13
9	22	31	53	20	7	27	0	5	5
10	26	36	62	18	12	30	0	12	12
11	19	26	45	17	18	35	0	12	12
12	26	37	63	11	18	29	0	13	13
1	28	31	59	19	12	31	0	13	13
2	25	42	67	18	7	25	0	13	13
3	34	40	74	21	10	31	0	16	16
計	313	415	728	208	174	382	0	159	159

第二千歳療護園

《概況》

今年度スポーツ界では、ラグビーワールドカップで24年間勝ち星のなかった日本が過去2度の優勝を誇る世界ランキング3位の南アフリカに勝ち、野球ではソフトバンクホークスが日本一となり、相撲では柳川市出身の琴奨菊が日本出身力士で10年ぶりの優勝を果たすなど嬉しいニュースがあった。しかし、一方では、飲酒運転、虐待、未成年の凶悪な犯罪などが後を絶っていない。

さて、社会福祉法人の在り方について国会の中でもいろんな議論がなされており、次の国会に於いて法人の「財務諸表の公表・透明化」、「地域公益活動の義務化」この二つが国会で承認される見通しである。社会福祉法人への課税は先送りとなったが、税制改正大綱で今後も議論されるので、非課税扱いの対象となるのに相応しい取り組みを行う事で、課税阻止を目指していく必要がある。

また、国家が国民ひとりひとりに番号を割り当て、個人の所得や年金、納税などの情報を一つの番号で管理する目的の個人識別番号「マイナンバー制度」が導入された。

身障協では、施設におけるさまざまな生活上の困難やニーズを抱える方々に対する個別支援の実現のために、不可欠となるサービス提供体制の充実やサービスの質の向上と標準化をさらに進めていくことを目的として、常時介護と医療的ケアを必要とする障害者を支援する障害者支援施設における個別支援のために求められる取り組み、日々の支援内容やサービス提供体制に関わる事項を整理し、身障協の「個別支援の実現に向けたケアガイドライン」をとりまとめている。ケアガイドラインは、支援の基本的姿勢や、個別支援の実現とサービス提供体制に関わる内容、また、日常的生活支援や良質かつ安心・安全な支援のための仕組みづくり、さらには、地域を支える福祉拠点としての取り組み等の内容で構成されており、当園でも日中活動の見直しやガイドラインに沿った介護マニュアルの見直しを行った。

毎年10月に行われていた“法人全体のゆうかり大運動会”は25年度26年度は開催を見送っていたが、平成27年4月東部運動公園竣工の運びとなり晴天の中3年ぶりとなるゆうかり大運動会が盛大に行われた。

また、昨年度は自然災害が多い年であった。1月25日の朝、西日本を直撃した大寒波により、西日本の上空1500mに氷点下15℃を下回る強烈な寒気が大雪を降らせ、積雪および路上の凍結が、危険な交通障害をもたらした。福岡では博多で観測史上最低となる-4.4℃を記録した。ゆうかり学園法人全体でも水道管が凍結してしまい断水する事態となった。

移転後、徐々に生活が安定していく中で、不都合な箇所が見つかりハード面での改修も行っている。

総務部

<第二千歳療護園 経理・庶務課>

本年度の生活介護（日中支援）の利用人員は、延べ 10,270 名、定員の 98.7%で、入所支援（夜間）の利用人員は延べ 14,904 名で 103.5%の利用率であった。

内訳は 7 名の利用者様が延べ 438 日間の入院の他、外泊日数は延べ 117 日間となっている。入院日数や外泊日数を除くと、実利用者数は延べ 14,349 名で 99.6%の充足率であった。

一度入院されると退院までの期間が長期化する傾向が窺え、平成 28 年 3 月 31 日現在 1 名の利用者様が継続入院となっている。

短期入所の利用は年間延べ 59 名で、日中一時支援の利用はなかった。

本年度の利用者の地域別入退所者状況は別表（1）参照。

生活部

(1) 生活援助課

(パートナー係)

ケアプランのニーズを中心に利用者様の立場に立った利用者様本位のサービス提供を基本において、月 1 回の自治会役員の方との話し合い（暖和会）や園長との懇談会、職員との懇談会、利用者様との話し合いの場（ちとせ会）を通して、利用者様の自主性・選択性・対等性を尊重しながらサービス提供を行ってきた。

利用者様のニーズとして最も多い外出行事に関しては、昨年度に引き続きその月の誕生者に久留米ゆめタウンや吉井ユメマートへ買物を中心とした外出を毎月計画し、体調不良などの理由で参加できなかった 5 名を除き 36 名の方が参加された。希望外出では障害者スポーツ大会、学生時代の同窓会へ出席していただいた。日中活動として午後よりビデオ視聴、毎週木曜にカラオケを実施してきた。今年度は「利用者様の充実した日中活動を支援する」をテーマにサポート系のスタッフを中心に日中活動委員会を立ち上げ、ケース担当者が個人のニーズにマンツーマンで対応出

来るように、「個別活動」として業務の中に組み込み、居室整理や天気の良い日には気分転換の散歩、趣味活動（テレビゲームやオセロ、塗り絵など）などを行ってきた。誕生者外出以外にも午後からの1時間程度ではあるがドライブ外出を6月より21回実施し、延べ54名の方が参加された。また委員会を中心に第二千歳が午前中入浴の月に、月1回程度レクリエーション（ボーリング、かるた大会、秋の音楽会などを実施）や製作活動（ぬり絵、福笑い、書初めなど）を行い、日中活動の充実を図ってきた。

月1回の生け花では毎回その季節の美しい花を生け、千歳、第二千歳の各所に飾っている。また、今年度は生け花の他に7月より毎月1回ネイルアートのボランティアの方に来ていただき、女性利用者様を対象に手や足の爪を鮮やかな色彩で飾っていただき大変好評を得ている。

来年度に向け、現在実施している誕生者の外出を利用者様からの希望が多い昼食を兼ねた外出にする計画を検討しており、外出の機会を増やすと共にその内容も充実させていかなければならない。移転して1年以上が経過し、日中活動に参加して楽しまれる方、居室でパソコンを使用してSNSや買物を楽しまれる方、テレビゲームやDVD鑑賞を楽しまれる方など利用者様もそれぞれの生活リズムで余暇時間を過ごされている。これからも多様化する利用者様のニーズに耳を傾け、その実現に向けて各部署、千歳療護園と連携を図りながらサービスの提供を行っていききたい。

☆ 週生活表は別表（2）、年間実施行事は別表（3）の通りである。

（サポート係）

生活面では、生活支援の専門性を十分に活かしつつ、支援を必要とする様々な障害のある利用者様への個別支援をさらに発展して行くこと、また、そのためのさらなる専門性の向上に努めて行くために、サービス管理責任者を中心としたチームとなり、個々のニーズに対応するサービスメニューを豊富にする等、日中活動事業をはじめとする支援内容の充実を努めた。今年度、新たに日中活動委員会を立ち上げ、委員会が中心となって『利用者様の充実した日中活動を支援する』をテーマに、計画・支援を行なった。活動の内容は①個別活動については、個々のニーズに対応できるように、担当支援員とのマンツーマンの時間を設定し、気分転換の散歩、居室整理、パソコン教室等、個々のニーズに応じている。②レクリエーション(各種ゲーム)については、月に1回程度開催し、その計画・実施を支援員が交代で担当する事で、良いアイデアが生まれバリエーションも増えてきている。利用者様、職員共に向上心を持って色々な事に挑戦・チャレンジして頂く事で、より良い生活につなが

るように努めた。③ドライブ外出も1時間程度の個々に応じたプランを立て実行し「リフレッシュ出来る」「また行きたい」と好評を得ており継続して行っている。その他に関しては、④文化的製作活動、⑤ビデオ視聴、⑥カラオケ、⑦自治会活動(話し合い)、⑧誕生者外出、⑨希望外出(買物・食事・催物見学)等行なった。また、⑩生け花・ネイルボランティアなど地域との交流も深めながら、利用者様の個別支援の充実を図り、自己実現を支援するよう努めた。

介護面に関しては、入浴支援について見直し、シャワーストレッチャー、シャワーチェアを導入したことにより、利用者様の衛生管理、介護面での負担軽減に繋がった。

日常的な排泄関係でのスムーズな同性介助を目的としてインカム(トランシーバー)を導入し、職員間での連携を図りながらより快適な支援に努めた。波及効果として、職員間でのコミュニケーション、他の支援場面の状況把握等、様々な効果も得られている。

また、生活していく中で不便な箇所が出て来たため、いつでも屋外へスムーズに移動出来る様スロープの設置、個人に合った特殊なトイレの手すりの設置、洗面台(手洗い台)の高さ調整、事故防止用にトイレでの補助具など、より快適に生活して頂ける様、ハード面でも支援に努めた。

今後も、笑顔あふれ、個人の生活が多様にある施設を目指し、利用者様が「私の希望や願いを必ず聴いて、一緒に叶えようとする人々がいる」という安心感、信頼感を持っていただける様、生活支援に努めたい。

(2) 訓練援助課

第二千歳療護園においては、利用者様41名(男性23名・女性18名)に対し、作業療法士1名・機能訓練員1名で訓練を実施した。

利用者様一人あたり一回の訓練時間を40分とし、身体状況によって週1~2回実施、個別に係り、状況に応じて居室を使用し、充実した訓練内容となるよう援助を行った。

訓練内容については、利用者様の状態や希望に合わせ、主に体力・筋力の維持、関節可動域の維持、残存機能の維持、拘縮の予防、痛みの軽減等を目的として実施している。実施内容については下記の通りである。またスキルスクリーン等の制作活動を行うことで、手指巧緻性の維持を図りながら作品を作ることへの意欲や楽しさ、完成した時の喜びを味わえるようにも組み入れている。加えてバツテ

イングやキャッチボールといった体を使った活動、オセロやトランプ、パソコン（インターネット検索）等の趣味活動、散歩（屋内外）といったことも行っていくことで、機能面のみでなく、精神面へのアプローチにも繋げ、気分転換や訓練時間をより楽しいものと感じてもらえるよう係っている。そして利用者様の日常生活にとって少しでも刺激となり、日々の変化を感じられる、環境等の変化に繋がるように心掛けている。

また例年に引き続き車椅子管理、補装具の交付 3 名・修理申請手続き 15 名、福祉用具購入 3 名等についても実施した。

（訓練内容）

- 関節可動域維持訓練
- 体力、筋力維持訓練
（腕立て、腹筋、背筋、スクワット、バンド等）
- 巧緻動作訓練（紐通し、パズル、はめ絵、折り紙等）
- 姿勢保持訓練（立位、座位バランス等）
- 日常生活動作訓練（車椅子移動、移乗動作等）
- 歩行訓練（歩行器歩行）
- 趣味活動
（スキルスクリーン制作、バッティング、ゲーム、パソコン等）
- リラクセーション（上田法、マッサージ、プロンキーパー等）
- 電動車椅子操作練習

（3）生活部相談援助課

《概況》

平成 27 年度は、施設の移転引越し後、1 年半が経過した。相談援助課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活援助業務（食事、入浴、排泄、移動等）で関わりを深めながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様一人ひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努め知能・発達検査も行った。

そして、情緒の安定を目的として行ってきた読み聞かせの活動を、千歳、第二千歳の相談室の二カ所で実施し、前頭前野の活性化を図るためにカードのインプット

等にも取り組んだ。

また、移転地は散歩をするには絶好の環境であるため、気分転換・ストレス解消等を目的に敷地内や隣接の運動公園で活動を行った。

利用者様も個室生活に慣れてきたと思われるが、孤独感を感じさせないように各居室に向いたおりに、これまで以上にコミュニケーションを密にとるように心掛ける配慮も継続した。

(援助内容)

- ① 面談活動 (カタルシス)
- ② 散歩療法 (発散、リフレッシュ)
- ③ 表現療法 (遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係)
- ④ ポジショニング (リラクゼーション、慢性痛の軽減、QOL の拡大等)
- ⑤ 前頭前野活性化法 (読み聞かせ、公文カード、ドリル等)
- ⑥ 介護全般
- ⑦ メンタルヘルス (ドライブ外出、カウンセリング)
- ⑧ 環境整備、その他

(心理検査)

発達検査 (1 回) 知能検査 (0 回) 性格検査 (0 回)

(4) 生活部看護課

障害者支援施設においては、利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、園内で医療行為を必要とする利用者様が徐々に増加する傾向であり、今後も協力病院との連携が必要であり、利用者様の健康管理・衛生管理を行いサービス向上に努めている。

《平成 27 年度》

- | | | |
|---------------|---------|------|
| ④ 委託入院 | 田主丸中央病院 | 10 件 |
| ⑤ 医療的ケア | 胃 瘻 | 2 名 |
| ⑥ インフルエンザ予防接種 | | 40 名 |

④第二千歳療護園 年齢別入所者数 平成 28 年 3 月 31 日現在

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	計
利用者数	1	2	8	19	7	4	41
%	2	5	20	46	17	10	100

⑤第二千歳療護園 病類別入所者数

平成28年3月31日現在

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	31	脳梗塞後遺症	1
先天性骨発育不全症	1	頭部外傷後遺症	1
高血圧性脳出血	1	糖尿病	1
脳炎後遺症	1	シャリコマリートウス氏病	1
白内障術後無水晶体眼・左眼球萎縮	1	脳出血後遺症	1
クーゲルベルグ・ヴェランダー病	1		

別表(1)

地域別入退園者状況表

平成27年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町							
	上 陽 町							
	大 木 町	2			2	1	1	
	大 和 町							
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苅 田 町	1			1	1		
	筑 前 町	1			1	1		
	福 智 町	1			1		1	
小 計	5			5	3	2		
市 福 祉 関 係	福 岡 市	5			5	3	2	
	北 九 州 市	1			1	1		
	大 牟 田 市	2			2		2	
	久 留 米 市	9			9	5	4	
	直 方 市							
	飯 塚 市	2			2	1	1	
	田 川 市							
	柳 川 市	2		1	1		1	
	宗 像 市							
	八 女 市	1			1	1		
	筑 後 市							
	大 川 市	1			1	1		
	小 郡 市	1			1		1	
	筑 紫 野 市	2			2	1	1	
	春 日 市							
	大 野 城 市							
	糸 島 市							
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
中 間 市								
古 賀 市								
う き は 市	4			4	2	2		
朝 倉 市	3	1		4	3	1		
み や ま 市	3			3	2	1		
福 津 市								
小 計	36	1	1	36	20	16		
県 外	鳥 栖 市							
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
小 計	0	0	0	0	0	0		
合 計	41	1	1	41	23	18		

別表 (2)

週 生 活 表

第二千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替 ・ 洗面 ・ 移動 朝食						
9:00	移動 ・ 排泄 ・ 歯磨き (朝礼 ・ 申し送り) (寝具交換 ・ 掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会
10:30	訓練	訓練	訓練	外出	外出	【生花】	
11:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
12:00	昼食 移動 ・ 排泄 ・ 歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	訓練	訓練	定期診察	療育会議 外出	外出 ちとせ会 職員懇談会	訓練	
15:00	訓練	訓練	訓練	暖和会	訓練	訓練	
16:00							
16:20	※ 入浴は、千歳と第二千歳を1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17:00	夕食						
18:00	歯磨き (自立者一部)、後片付け、排泄						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き (介助者)						
21:00	歯磨き (自立者)						
21:00	消 灯						
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月 曜 日 ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション (月～土) ○ 火 曜 日 利用者買物(隔週)、定期診察(男女月1回) ○ 水 曜 日 誕生者外出、療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義) 暖和会 (第2週) ○ 木 曜 日 誕生者外出、ちとせ会・職員懇談会(第2週) 午後カラオケ ○ 金 曜 日 ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション ○ 土 曜 日 利用者と園長懇談会(最終土曜日)、生け花(第3週) ○ 月 行 事 体重測定(千歳：第一日曜 第二千歳：第二日曜日)、出張散髪 (最終月曜日) ○ 隔 月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議) 						

別表 (3)

年間実施行事記録表

平成 27 年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	23	開園記念行事	10	1	ネイルボランティア (29日)
	26	★身体障害者スポーツ大会		6	☆誕生者外出
	28	天理教ひのきしん (除草作業)		18	ゆうかり学園運動会
	30	☆2015 サニックスラグビーワールドユース交流大会		22	☆誕生者外出
		☆誕生者外出 (8日, 9日 AM, PM)		24	生け花
5	2	★希望外出 (国民宿舎ひびき)	11	12	☆誕生者外出 (13日, 16日)
	16	生け花		13	☆誕生者外出
	19	☆誕生者外出		16	☆誕生者外出 (25日)
	22	☆誕生者外出		21	生け花
				26	ネイルボランティア ☆誕生者外出
6	12	☆誕生者外出 (AM, PM)	12	10	浮羽消防署指導避難訓練・餅つき慰問
	18	☆誕生者外出		15	☆誕生者外出 (25日)
	19	☆ナイター観戦		19	生け花
	20	生け花		22	ネイルボランティア
				24	忘年会
7	18	生け花	1	9	生け花
	23	盆踊り花火大会		13	☆誕生者外出
	23	ネイルボランティア		14	☆誕生者外出
	30	☆誕生者外出		21	ネイルボランティア
	31	☆誕生者外出		28	☆誕生者外出
8		☆誕生者外出 (12日, 13日)	2	20	生け花
	25	ネイルボランティア		24	☆誕生者外出
	26	生け花		25	☆誕生者外出
	27	ちとせ祭		25	ネイルボランティア
	28	☆大昌園焼肉招待		25	防災教育
9	10	避難訓練	3	10	☆誕生者外出
	17	☆誕生者外出		18	本佛寺慰問
	19	生け花		22	ネイルボランティア
	23	☆誕生者外出		23	☆誕生者外出 (24日)
				26	生け花

(参) 実習生受け入れ状況

* 介護等体験実習

大 学 名	実習期間	人数
久留米大学	5日間	5
九州大学	5日間	5

◎ 延べ人数 10名

別表(4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	2	1	3
	一部介助	11	9	20
	全介助	10	8	18
起 坐	自 立	8	4	12
	一部介助	1	3	4
	全介助	14	11	25
立ち上がり	自 立	3	2	5
	一部介助	4	2	6
	全介助	16	14	30
排 泄	自 立	1	2	3
	一部介助	7	2	9
	全介助	15	14	29
更 衣	自 立	3	3	6
	一部介助	5	1	6
	全介助	15	14	29
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	3	1	4
	全介助	20	17	37
歩 行	自 立	2	0	2
	一部介助	1	3	4
	全介助	20	15	35
寝返り	自 立	11	7	18
	一部介助	3	3	6
	全介助	9	8	17
車椅子使用	自 立	4	2	6
	一部介助	7	8	15
	全介助	9	7	16

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	3	5	8
		2回	6	7	13
		3回	7	5	12
		4回	4	1	5
		計	20	18	38
	服 薬	1回	12	10	22
		2回	8	8	16
		3回	0	0	0
		計	20	18	38
	体位変換	1回	1	0	1
		2回	0	0	0
		3回	0	2	2
		6回	0	1	1
		計	1	3	4
おむつ使用	昼・夜	12	10	22	
	夜間のみ	1	2	3	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

委員会報告

- 苦情解決委員会
- 安全管理委員会
- 防災対策委員会
- 院内感染対策委員会
- 広報委員会
- 療育会議運営委員会
- 福祉 QC 委員会

苦情解決委員会

《概況》

平成 27 年度苦情解決委員会は、施設ごとの定期委員会において、苦情・要望への対応・調整・解決等に取り組んだ。その取り組みを利用者・保護者とのコミュニケーションの機会あるいは職員のサービス内容・サービス提供のあり方等の修正・改善・点検の手掛かりとしても活用した。

法人委員会としては、療育会議において、年 2 回の外部講師による人権研修会、12 月の第三者委員への報告会と療育会議にて虐待防止研修会、3 月の職員報告会を行った。特に第三者委員への報告会においては、守秘義務に配慮した上で苦情・要望記入票等を事前に第三者委員へ送付し、吟味して頂いた上で報告会を開催した。

《苦情・要望件数》 ー平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日ー

	ゆうかり	耳納学園	千歳・第 2 千歳療護園
1. 職員の言動・対応等に対する苦情	1	3	2
2. 施設への要望・苦情	2	0	1
3. 外部よりの苦情	0	0	1
4. 保護者（後見人）よりの苦情・要望	3	1	2

《基本的取り組み内容及び状況》

法人各施設は利用者の年齢、心身の状態、施設機能により、苦情・要望の訴え方、内容、件数に違いがあるが、取り組みの過程でそれぞれ継続した課題を有している。

ゆうかり医療療育センターでは、各寮で権利擁護専門委員会が活動しているが、利用者様の虐待防止、権利擁護の意識の向上につながっている。苦情では、同じ保護者様からの苦情が出ており、日頃から、保護者様とのコミュニケーションをとりながら、ニーズに応じていかなければならない。今年度も虐待防止のための自己チェックを行い、福祉施設職員としての認識の向上に努めた。

千歳・第二千歳療護園ともに移転引っ越し後、1 年半が経過した。利用者様において、日常生活がある程度落ち着いてきたように感じられる。また、職員においては業務の慣れの中から、利用者様に対しての接遇で数件の苦情を受けた。終始緊張の中で業務に携わる事の難しさはあるが、利用者様に対する時には、自分の言動には細心の注意を払い、権利擁護の意識を常に持ち続ける事が大事であると痛感した。

耳納学園では、在宅から施設入所となった利用者様より今までの生活との違いから様々な相談があった。利用者様の希望される生活の仕方をどれだけ施設の中で実現できるかなどを、根気よく話し合いながら、対応を続けている。また、利用者様への医療面の説明が足りなかったことにより、利用者様が不安になられてご家族に連絡をされ、保護者様より質問の電話があったが、速やかに対応し、理解が得られた。今後も、気軽に相談できるような窓口を確保し、問題解決だけでなく、精神的な不満についても解消していきたい。

安全管理委員会

《概況》

当委員会は、利用者様と職員等が安心でき、安全で信頼に値する生活、そして、良質な医療を受けられるように環境を整え、利用者様本位のサービスの質の向上と医療介護事故防止を重点課題とし、各施設においてそれぞれの活動を行った。職員より提出されたインシデント報告及びアクシデント報告書の評価を行い、事故防止対策の具体的内容について検討し、事故の再発、未然防止につとめた。法人全体においては、10月に研修会、3月に職員への報告会（感染症のため、文書配布のみ）を実施し安全管理にたいする意識向上をはかった。

《具体的取り組みと事故発生状況》

[ゆうかり]

* 毎月の委員会開催にて各問題点を検討し、職員の安全に対する意識をたかめた。

(事故報告件数)

転倒、転落・・・23件	外傷・・・39件	与薬関係・・・3件
注入カテーテル関係・・・20件	その他・・・111件	
合計・・・233件		

[千歳]

* 職員介護でのミスによる転倒事故が2件あり、そのうち1件は行政へ事故報告書を提出するとともに、QC手法を用い原因究明と今後の更なる対策を施設全体で話し合った。

(事故報告件数)

転倒・・・3件	外傷・・・3件	誤薬・・・3件	その他・・・3件
合計・・・12件			

[第二千歳]

* 電動車椅子使用利用者様が自力操作中に壁に接触し、左脛骨を骨折する事故があり、行政へ事故報告書を提出した。

(事故報告件数)

転倒・・・6件	外傷・・・2件	加害・・・1件	その他・・・1件
合計・・・10件			

[耳納]

* 利用者様及び職員に対して事故防止への意識向上をはかった。

(事故報告件数)

転倒・・・7件 熱傷・・・1件

合計・・・8件

防災対策委員会

《概況》

社会福祉施設においては、各種の災害時の際に、特に配慮を要する利用者様が入所されており、その防災対策を確立することが強く要請されており、当委員会ではより良い防災対策を確立することを目的に活動を行った。その中でも火災時の対策に重点をおき、各施設（耳納・千歳・第二千歳・ゆうかり）で、定期的に避難訓練を実施し、常日頃から職員及び利用者様の防災に対する意識向上を図った。今年度は夜間に火災が発生した場合を想定して、ゆうかり学園において、夜間想定総合避難訓練を重点的に行い、施設間の応援体制の整備、確立を行った。又、地震災害・風水害等に対応出来るようにマニュアルを作成中である。

毎年開催されている浮羽消防署管内の屋内消火栓・消火器操法大会には、消火栓の部にゆうかり学園から3チーム、消火器の部に千歳療護園から1チームが出場した。

《避難訓練実施状況》

(耳納学園)

3回実施 ゆうかり学園合同夜間想定総合避難訓練

(千歳療護園)

4回実施 ゆうかり学園合同夜間想定総合避難訓練（内1回は日勤時想定）

(ゆうかり学園)

3回実施 ゆうかり学園合同夜間想定総合避難訓練

毎月1回各寮別に実施

院内感染対策委員会

《概況》

今年度は、ノロウイルス感染症はなく、穏やかにすごしていたが、2月下旬から3月中旬に通学生を中心に、インフルエンザA型9名発症、隔離解除後1日目で複数の利用者様が、インフルエンザB型に感染した。

改めて感染症対策について、再検討の必要性を痛感した。

月	内 容
4月	平成27年度年間計画・委員会指針について
5月	麻疹について 手洗いパトロール
6月	腸管出血性大腸菌感染症（O-157）について
7月	ノロウイルス感染症について
8月	針刺し・噛みつき事故による感染症について
9月	アデノウイルス感染症について 環境パトロール
10月	インフルエンザ感染症対策・予防について
11月	ESBL産生菌について
12月	ノロウイルス感染症について
1月	結核について
2月	手足口病について
3月	平成27年度感染症報告 手洗いパトロール

開催日 毎月第1金曜日

開催時間 9:30～10:00

委員 所長他13名

11月の全体研修会（院内感染対策委員による講義）

- ・重症児施設の特徴
- ・感染症とは何？
- ・手洗いについて
- ・手袋の使用方法
- ・ゆうかり学園における感染防止対策

《概況》

職員の健康保持増進を図り、明るく快適な職場環境を形成することを目的とする。
 学園における心の健康づくり計画を作成、メンタルヘルス対策に重点的に取り組み、本年度より制定されたストレスチェック実施にむけて準備に取り掛かる。

月	内 容
4月	平成27年度年間計画について
5月	腰痛対策について
6月	食中毒について
7月	熱中症について
8月	職場環境（温度条件）
9月	メンタルヘルスについて
10月	喫煙対策
11月	睡眠について
12月	寒さ対策
1月	騒音対策
2月	視環境について
3月	疲労とストレスについて

- ・委員会（院内感染対策委員会の中で開催）

7月 全体研修会（メンタルヘルス推進担当者による講義）

テーマ ストレスチェックについて

《概況》

広報委員会は、広報紙の発行とホームページの管理を担っている。

広報紙は6月1日（47号）、10月1日（48号）、2月1日（49号）の年間3回発行し、委員6名で構成した編集会議は、施設内LANを活用して年間3～4回にとどめ、締め切り内に発行することが出来た。

ホームページに関しては、インフォメーションなど手軽に更新できるようにリニューアルしているが、更新数は多くない。

広報紙各号の内容および配布先や発行部数は、以下の通りである。

[発行内容]

- 第47号（平成27年6月1日発行） 表紙…耳納学園
 - ・ これからの法人運営のあり方について…日野理事長
 - ・ こえだ物語42（食を通し、皆さんの生活を支えたい！給食部、給食委員会の活動紹介）
 - ・ 今日の仲間30（小学部、高等部計6名の入学者紹介）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）、善意のかずかずや新人紹介他
 - ・ 26年度事業報告、決算状況報告および27年度事業計画の報告記事
- 第48号（平成27年10月1日発行） 表紙…おひさま寮
 - ・ 移転から1年が経ち（千歳・第二千歳療護園）…谷副園長
 - ・ こえだ物語43（耳納学園オリジナル商品焼肉のたれの紹介）
 - ・ 今日の仲間31（耳納学園、千歳療護園、なかよし寮、支援センターちとせの仲間）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他
- 第49号（平成28年2月1日発行） 表紙…第二千歳療護園
 - ・ 新春インタビュー「年頭に当って」…日野理事長
 - ・ こえだ物語44（総務部管理課の業務内容の紹介）
 - ・ 今日の仲間32（ともだち寮、おひさま寮、第二千歳療護園、コアラ園の仲間）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、永年勤続表彰、新人職員紹介他

[配布先および発行部数]

- ◎学園関係（利用者様及び園内各部署、賛助会員様等に配布…500部）

◎行政や地域、関連諸施設、学校などに配布（700部）

◎1回の発行部数は1,300部、年間発行部数は3,900部であった。

療育会議運営委員会

平成27年度は表の通りに実施した。

今年度の人権問題（外部講師）は、昨年に引き続き西尾紀臣様へ依頼し、9月に『人の世に“熱と光”をもとめて〜』と題して、人権を認め、人と人のつながり（縁づくり）の大切さ、人として一番大切なことや子育てについてのエピソードのお話がありました。また、2月に第2回を予定していたが、感染症（インフルエンザ）の影響で中止となった。

1月以降は感染症（インフルエンザなど）の影響で、全体での療育会議が実施できず、3月に予定していた報告会は各施設・各寮での報告会となった。

（平成27年度） 療育会議実施 H27年4月～H28年3月

日付	会議名(担当)	司会	記録	準備・片付	日付	会議名(担当)	司会	記録	準備・片付
4/8	講義(理事会)	花田正剛	小川孝子	なかよし 看護	10/14	安全管理研修会	永松利枝子	小川芳江	千歳
4/22	各施設・寮				10/28	各施設・寮			
5/13	QC発表会	小川孝子	永松利枝子	おひさま 育成	11/11	感染症研修会	小川芳江	大山美佐	第二千歳
5/27	各施設・寮				11/25	各施設・寮			
6/10	QC発表会	大山美佐	山崎幸盛	耳納 給食 心理	12/9	虐待防止研修会	山崎幸盛	宮崎義正	訓練
6/24	各施設・寮				12/23	天皇誕生日			
7/8	衛生管理研修会 (メンタルヘルス)	古賀剛	森岡勝裕	ともだち 育成	1/13	予備日			ともだち 看護
7/22	盆踊り準備				1/27	各施設・寮			
8/12	予備日			おひさま 看護	2/10	外部講師(人権問題) 中止	宮崎義正	古澤健一	なかよし 看護
8/26	各施設・寮				2/24	各施設・寮			
9/9	外部講師 (人権問題)	森岡勝裕	古賀剛	ともだち 育成	3/9	各施設・寮			おひさま 育成
9/23	秋分の日				3/23	報告会 (苦情解決・安全管理・ 感染症委員会)	古澤研一	城處浩子	

※ 第2週目にできなかった場合、第4週目に変更することがある。

福祉QC委員会

現在各部署によりそれぞれQC活動を行っている。昨年の反省を踏まえて、他部署への協力依頼、情報収集を目的とし、ゆうかり3寮では各育成課、看護課にそれぞれ連絡員を配置し対応にあたった。テーマの内容により、活動に差はあったと思われるが、ある程度の成果はあったものと感じられた。

全体的な反省として、テーマの選定により活動内容が左右され、その重要性を感じられたとの意見が多く出された、今後の活動においてテーマの選定の部分でQC委員がしっかりサポートし、活動内容の充実をはかることで一致した。また、新しい手法や情報を入手し、全体的なレベルアップに取り組んでいく必要性も取り上げられた。そのほか職員のスキルアップも見受けられ、特にリーダーシップが発揮できたチームでは成果が見られたとの意見も出され、QC委員一人一人の積極性がより求められている。

第26回「福祉QC」全国発表大会出場サークルについて

平成27年11月24日～11月25日（東京にて開催）

（平成26年度優秀チーム1組が出場）

- ・ ゆうかり医療療育センター 外来・コアラ ーリベンジ隊ー
 テーマ「医療廃棄物を正しく分別して出そう」
 （今回全国発表大会におき、敢闘賞受賞）

27年度 活動サークル

所 属	サークル名	テーマ
おひさま看護	知りたいっ隊	利用者の状況を把握したい
なかよし看護	Happy New York	安全な入浴介助をめざして
ともだち看護	コスト減らし隊	オムツの使用量を減らしたい
なかよし訓練	POST まで	見て知って分かってくれたら
千歳療護園	心機一転G	日中活動の充実化 （参加人数を増やそう）
第二千歳療護園	まがりまめ2	余暇活動の充実をめざして
耳納学園	みのうとうきーズ	保護者様の関わりを増やそう （展示会を通して）
給食部	まごころ届け隊	ムセを少なくするために